

同窓会報

No.25



豊橋技術科学大学



豊橋技術科学大学吹奏楽団 第23回定期演奏会

2008

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問 西 永 頌

平成16年からの国立大学の法人化は大学に大きな影響を与えています。今までは政府の一教育研究機関でしたが、政府から独立し、企業や私立大学のように、ひとつの法人になりました。前後して、政府系の殆どの省庁研究機関も独立行政法人として大きな変化を遂げています。

国立大学の場合、教育と研究という特別な任務を負っていますので、行政という立場からの効率化にはなじみません。そこで、独立行政法人にはせず、別に法律を作り、国立大学法人として出発しました。とはいえ、個々の大学は切磋琢磨し、より良い大学を作り上げてゆく必要があり、法人化は大学改革として位置づけられています。

国立大学を始め、日本の全大学が自主的に自分自身をより良い大学に作り変えて行くため国は幅広い競争的環境を作っています。21世紀COE (Center of Excellence) はじめ各種の競争プログラムが用意され、各大学はそれに向けて強力なチームを作り挑戦しています。また、マスコミもこれを後押しするように、各種の大学ランキングを公表し、大学の努力を促すしくみを作っています。

さらに、文部科学省と総務省の中に、評価委員会が作られ、大学の努力を評価によって確認するというしくみも作られました。今まで、国立大学は、親方日の丸で、安眠をむさぼっていたと評されていますが、その様な状態から、一変して非常に厳しい競争と評価にさらされる状況になりました。

しかし、この事態は本学にとってはかえって有利に働いているのではないか、というのが私の判断です。といいますのは、今までは、本学は、歴史も浅いこともあって、社会一般にその存在を示す機会が殆どありませんでした。しかし、本学は、初代学長の榊米一郎先生が常に口にしておられたように、旧制帝大にも負けないレベルの教員、設備、学生を持っていますがそれを示す証拠がありませんでした。しかし、競争の結果、その事実が明らかにされてきました。

21世紀COEでは2件が採択されましたが、この数は本学教員数から言いますと、日本でもトップレベルです。また、今年度から、その後継プログラムであるグローバルCOEの公募が始まりましたが、インテリジェントセンシングのフロンティアという本学のプロジェクトが採択されました。応募総数281件(111大学)の内63件(28大学)が採択という激しい競争です。東海4県では、3大学5件が採択されましたが、本学は、小規模大学ながらその中に入りました。また、日本経済新聞社が大学の地域貢献についてランキングを発表していますが、総合評価が全国10位、東海地方で1位と報道されています。そのほか、朝日新聞社の出している大学ランキングなどをごらんになると本学が、いかにレベルが高いかがお分かりになります。諸君の大学は非常に頑張っていますので是非応援をお願いします。

さて、終わりに開学30周年記念事業の進行状況をご説明します。同窓生諸君からの募金が600万円近くになりましたので、同窓会がかねて計画しておられた運動場の夜間照明灯(二基)の設置をすることにしました。本学は、授業が多いため冬季には授業が終わると真っ暗で運動場を使った練習が出来ない状況でした。全体を明るくするには6基が必要ですが、練習の出来る最小の数に抑えました。今後とも、同窓生の皆さんの支援を期待します。

記念事業のうち、大きなものとして、オーエスジー株式会社と地元の5信金からの寄附講座があります。それぞれ本学における精密加工、食農に関する教育研究を進めるためのものです。前者は、第二工学系に所属し、後者は、新しく出来た、先端農業・バイオリサーチセンターに所属します。さらに、この機会に多くの企業との共同研究を開始することが出来ました。皆さんが勤務しておられる企業においても本学との共同研究を始められることをご検討ください。

では、皆さんの御活躍と本学へのご支援をお願いし報告とさせていただきます。

第一工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械システム工学系 感本 広文

卒業生・修了生の皆様、お元気にお過ごしのことと存じます。恒例の教職員異動の報告の前に職名の変更についてお知らせいたします。従来、教員の職名は教授、助教授、講師、助手でしたが、本年4月より、教授、准教授、講師、助教に変更されました。さて、教員の異動ですが、4月に熱・流体工学講座に光石暁彦先生が助教として着任されました。また、3月には機器設計学講座(研究基盤センター)で助手をしておられましたザヒド先生が、母国バングラディッシュの大学に異動されました。また、2月に感本が助教授(4月から准教授)に、5月にグナワン先生が助教に昇任されました。

続いて学生の就職状況ですが、本年度も大企業、有名企業に就職する学生が多く見られ、好況であったといえます。団塊世代の定年ラッシュをむかえてどの企業も一人でも多く優秀な人材を確保したいという熱心な姿勢がうかがわれました。多くの企業から本学に求人に来ていただけるのは同窓生の皆様方の社会での活躍によるものが大きいと感謝しております。また、本年もたくさんの方がリクルータとして本系を訪問して下さいました。学生にとっては先輩の生の声が聞ける貴重な機会となっておりますので今後ともよろしくお願いたします。

既に1系のホームページをご覧になった方はご存知のことと思いますが、昨年秋に日本技術者教育認定制度(JABEE)の審査を受け、2007年5月に本系の教育プログラムがJABEEに認定されました。申請に際しましては、何人かの方にアンケートをお願いする等、同窓生の皆様にもご協力いただきましたことを厚く御礼申し上げます。社会のニーズに即して本系の教育プログラムを改善していくためには本系の教育を体験され、社会の第一線で活躍されている同窓生の皆さんからフィードバックをいただく事が最も効果的であると考えます。本系では今後も継続的に教育プログラムの改善を続けてまいりますので引き続き皆様のご支援とご協力をお願いいたします。最後になりましたが、同

窓生の皆様におかれましてはお体に留意してそれぞれの職場でご活躍されることを願って近況報告を終わらせていただきます。

[第一講座：熱・流体工学講座]

教授：三田地紘史、日比昭、北村健三
准教授：中川勝文、柳田秀記、鈴木孝司
助教：伊藤高啓、山本高久、光石暁彦

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教授：蒔田秀治、高木章二、野田進(系長)
准教授：鈴木新一、関下信正、内山直樹
助教：佐野滋則、名田謙

[第三講座：機器設計学講座]

教授：本間寛臣(工学教育国際協力研究センター)、
上村正雄、河村庄造(未来ビークルセンター)

准教授：感本広文

講師：竹市嘉紀

助教：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増学、神谷昌宏

[事 務] 太田千尋、野亦真理子

第1工学系同窓会事務局より

H18年度収支報告

収 入 の 部	
前年度繰越金	¥4,621,246
終身会費(前年度入会者計57名分)	¥570,000
利息(定期預金利子+普通預金利子)	¥1,308
収 入 合 計	¥5,192,554
支 出 の 部	
会報印刷費	¥36,420
会報発送関連費	¥91,120
アルバイト代	¥30,000
1系同窓会用封筒製作費	¥50,820
全学同窓会会計への払い戻し金	¥15,000
次年度への繰越金	¥4,969,194
支 出 合 計	¥5,192,554

第1系工学系同窓会 会長からのご挨拶

宮本 真志 (1983年度エネルギー工学専攻修了)

1系卒業生の皆さん、毎日元気で日本の発展の為に活躍の事と思います。私は、初代同窓会長の今泉さんの後を継いで、2代目の会長を勤めさせて頂く事になりましたので、近況の報告含めてご挨拶させて頂きます。今まで副会長として同窓会役員の一員でしたが、何一つ任務・責務を果たせていなかった様に思いますので、これからは、皆様のお力をお借りしながら、この同窓会発展の為に貢献したいと思っておりますので宜しくお願い致します。

私は、2期生で蒔田研出身です。思い起こせば、日夜風洞造りに没頭した日々が大変印象深く、今でも苦難に直面した時にはこの光景を思い出し、自分に力を与えてくれています。最初はとて「研究室」と言うには程遠い世界でしたが、即席栽培的に研究論文を書くのではなく、風洞と言う研究に必要な環境を整え計測器やセンサーの一つ一つを自ら製作し、この過程で理論を学ぶと言った言うなれば、研究と言うよりは仕事の進め方や考え方を学ぶ大切なステップであったと思います。その当時は、何でこんな事までやるのかと抵抗し、蒔田先生によく叱られたものですが、このステップがあったからこそ今までの会社生活の苦難に耐えてこれたのではと大変感謝しております。

私も卒業して25年が経過しようとしており、現在勤めているトヨタ自動車(株)でも色々な出来事がありました。入社まもなく経験したサンフランシスコでの海外勤務では、米国の巨大な自動車産業にひたすら驚き圧倒されましたが、多くの米国人の友人もでき、この人々達と共に仕事をする中で、何れはGMを凌駕したいとの闘志も湧いてきました。生活面では大地震に遭遇し、何時も通っていた橋が落ち、一つ間違えば我が身であったと肝を冷やした事もありました。

この会報をお読みの方々は、会社生活では多くの部下を持ち、人の上に立って会社を牽引する立場に立っておられる事と思いますが、私も同じ立場で最近の若

者を見て思う事があります。又説教かと部下に思われるのであまり言わない様にしておりますが、一言で言って、個性と情熱が失われつつある気がします。

最近お会いしたミシガン大学の先生が、教え子の分析として大変興味深い事を話してくれました。学生に自分の車の振動が不快である事を伝え実車を見せたところ、米国の学生は「これ問題ですか?」と答え、日本の学生は「確かに問題ですね」と答え何れも次のアクションがなかったとの事です。しかし、韓国の学生は「これは問題ですから是非調べさせてください」と非常に前向きであったとの事です。これは全ての人を代表している訳ではないとは思いますが、「当たらずとも遠からず」ではないかと思えます。

この同窓会は、会員の親睦を深めるのが目的かと思いますが、今後の日本を担う人材の育成を大学だけに任せるのではなく、この同窓会を卒業生の意見交換の場とし、社会から見た大学や学生へのアドバイスを積極的に行って行く事も大きな役割かと考えます。

最後になりましたが、会員の皆様に上記をお願いすると共に、この同窓会をより良きものにする為に協力をお願いして私の挨拶とさせて頂きます。



卒業生の近況報告

坂の上の雲の街からこんにちは！

野村 信福 (1993年総合エネルギー工学専攻修了)

愛媛大学は四国地方の西の端、人口約50万人の松山市の中心部に位置する、この地方最大規模の総合大学です。地方ゆえに、最新情報をいち早く手に入れることは難しいですが、逆に秘密が外になかなか漏洩しないという利点もあって、有名なレーシングチームの開発工場がこの地域に点在しています。現在、松山市は、「坂の上の雲」の街づくりプロジェクト”を掲げ、松山の街全体をフィールドミュージアムとする構想を進めています。その構想のシンボルとして、今年4月に建築家・安藤忠雄氏の設計による「坂の上の雲ミュージアム」が完成しました。「坂の上の雲」は明治維新以後の昂揚の時代に生きた、正岡子規や秋山兄弟の青春群像を描いた長編小説です。文化の香り漂うこの街で、司馬遼太郎の小説を読み、ゆっくりと散策しながら、温泉につかる、贅沢な時間を過ごすには最適な環境です。

さて、私は現在、愛媛大学大学院生産環境工学専攻教授として、液中プラズマ利用技術研究 (in-liquid plasma application technology research 通称IPAT) というプロジェクト研究を推進しています。従来の学科や研究室の枠にとらわれずに、音響工学、プラズマ理工学、化学工学、熱流体工学、電気工学や電磁波工学などをベースとした研究者の共同研究によって、液中プラズマプロセス、ソノプロセス、レーザー計測技術などの研究開発を進めています。液中プラズマとは、液体中の泡の中に発生する高周波やマイクロ波プラズマのことで、2002年に愛媛大学で誕生した技術です。液中プラズマは液体環境下でプラズマが発生するために、通常の気相プラズマと比べて分子密度が高く、化学蒸着として利用すれば高速成膜が可能となります。また、液体の冷却効果によって熱に弱い材料への成膜も可能となります。このため、我々はダイヤモンド状膜 (DLC) や多結晶シリコンカーバイド膜の合成、超臨界流体中でのプラズマの適用を提案するなど、様々な流体中を高温高圧の化学反応場として用い、それらの利用法とメカニズムに関する基礎研究を実施しています。2007年現在、9名の異なった研究室に所属する教官が本プロジェクトに参加しています。全員が専門分野を異にすることから、「苦手な領域がない」が本プロジェクトの特徴です。夢はダイヤモンド半導体の実現化と卓上型核融合反応炉の製作です。まだまだ、研究はまだ途についたばかりの研究ですが、エンジニア版、「坂の上の雲」を目指して、プロジェクトメンバー全員が大きな夢を持って研究に取り組んでいます。

話は変わりますが、3年ほど前に、米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学応用物理研究所に訪問研究員として滞在する機会を得ました。滞在期間は1

年と半年程度でしたが、その後も仕事と休暇を兼ねてシアトルをときどき訪問しています。夏は涼しく、冬は暖かいのですっかり気に入りました。日本では、野球のシアトルマリナーズの本拠地として有名な街ですが、シアトルにはプロバスケットボールや、アメリカンフットボールなどのプロスポーツがさらに盛んです。シアトルは人口規模が松山市とほぼ同じであるにも関わらず、たくさんのプロリーグが存在できることが驚きです。日本のプロリーグも、本当の意味でのフランチャイズ制を確立していかないと、スポーツは街には根付かないと肌で感じました。余談ですが、現地で日本人の小さな子供達が英語をペラペラしゃべっているのを聞いていると (あたりまえですが)、日本の英語教育に裏切られてきた小生の英語能力を顧みて、日本の英語教育はこんなことでいいのだろうかと思いつく考えさせられます。過日、技科大は留学生用に英語特別コースを開講していることを知りました。留学生への教育に関しても、「坂の上の雲」、最先端を目指す技科大であってほしいと思います。

追伸 1985年に大学祭を盛り上げるという理由で、学生プロレスを旗揚げし、学園祭をはじめ、各種イベントに参加しました。その伝統が、最近ついに途絶えたという“うわさ”を耳にしました。OBとしては寂しい限りです。とほほ... 中年太りが気になって、1年前からジョギングをはじめ、なんとか学生時代の体重にまで戻りました。今なら、学生プロレスに現役復帰できるかも.....



ワシントン大学応用物理学研究所前にて

研究室だより

流体工学講座・日比研究室

機械システム工学専攻 1年 豊川 大広

流体工学研究室（以後、日比研）を卒業並びに修了されました諸先輩の皆様、お加減如何でしょうか？現在、日比研では日比昭教授、伊藤高啓助教の両先生の指導の下、M2 7名、M1 3名、B4 4名、合計14名の学生及び大学院生が研究に打ち込んでおります。本研究室は日比先生を筆頭に、個性的なメンバーが多く集まっているため、他の研究室には無い独特の明るく賑やかでアットホームな研究室となっております。最近のトピックスといたしましては…

- 油圧式自由ピストン内燃機関の自立運転試作機の建造が着々と進行中です。開発メンバーはこの夏も、暑い実習工場や実験室において、汗を流しつつも部品の設計製作並びに動作確認に真剣に取り組んでおります。
- PIVによる界面付近の流れ場測定について、M2藤原が原子力国際会議（ICONE14）にて発表を行いました。また、分子動力学チームは濡れに関する諸現象のマイクロレベルからの解析を進めています。研究室の詳細についてはホームページ (<http://www.mech.tut.ac.jp/~hibilab/index.html>) にて公開いたしておりますので、併せてご覧下さい。最後となりましたが、日比先生が物事・研究において「気力が充実してこないといけない」という事を度々おっしゃられますが、我々もこれに倣い日々、気力を充実させ元気に頑張っております。諸先輩方のご健康と益々のご活躍を願うと共に、今後とも流体工学研究室の益々のお引き立て、ご声援下さいませよう何卒よろしくお願い申し上げます。

mech.tut.ac.jp/~hibilab/index.html) にて公開いたしておりますので、併せてご覧下さい。最後となりましたが、日比先生が物事・研究において「気力が充実してこないといけない」という事を度々おっしゃられますが、我々もこれに倣い日々、気力を充実させ元気に頑張っております。諸先輩方のご健康と益々のご活躍を願うと共に、今後とも流体工学研究室の益々のお引き立て、ご声援下さいませよう何卒よろしくお願い申し上げます。



環境エネルギー工学講座

機械システム工学専攻 1年 村上 賢悟

卒業生・修了生の皆様、各々の職場において益々活躍のことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。現在、環境エネルギー工学講座は野田進教授と名田譲助教のご指導の下、博士課程2名、修士課程8名、学部6名という計18名の大所帯で和気あいあいと研究に励んでおります。また18名の内、留学生は3名在籍しており、国際色豊かな雰囲気を持つ研究室となっております。

本研究室では数値解析班と実験班に分かれて燃焼現象の解明とそのモデル化に関する研究を進めております。数値解析班ではモーメント法、PDF/モーメント組み合わせ法、Large Eddy Simulation等の手法を用いた燃焼場のモデリングに関する研究を行っております。実験班は炉内燃焼を対象とした研究を行っており、炉内燃焼場におけるNOx排出特性の解明や高温空気燃焼場における燃焼特性の解明を進めております。特に、高温空気燃焼に関する研究では、バイオディーゼル燃料を用いるなど様々なアプローチを行っております。これらの研究は高効率で低環境負荷の燃焼技術を確立するための基礎となります。

環境問題が身近になりつつある昨今、研究室一同は自分たちの研究の意義を感じつつ研究に励んでいます。研究内容の詳細については研究室ホームページ (<http://www.mech.tut.ac.jp/~noda/>) をご覧下さい。

卒業生・修了生の諸先輩の方々におかれましては豊橋にお越しの際は私どもの研究室にお気軽にお寄りください。先輩方の経験談や研究に関するご助言を頂ければ光栄です。それでは最後になりましたが、先輩方の益々のご躍進を心よりお祈り申し上げます。



第二工学系

豊友会

-for you-

(生産システム工学系同窓会会報)

新会長あいさつ

生産システム工学系 同窓会長 中 川 真
(あさひ物流㈱代表取締役)

豊友会設立から15年を迎え、その会員数は1600名を超えました。「組織運営の透明化(会員サービスの向上)なくして豊友会の発展なし」という役員の高い意志の下、このたび新会長という身に余る大役を仰せつかり、その使命の重責に不安な心境であります。皆様の温かいご支援をお願いいたします。以下、先日開催の豊友会に触れ、私の挨拶といたします。



去る6月30日(土)正午からホテル日航豊橋にて豊友会「総会・懇親会」を開催しました。実行委員会幹

事の三好先生の進行で会則・新会長が承認可決されました。引続き、川上・堀内両先生の退職記念パーティーを主体とした懇親会に移りました。顧問の清水系長の挨拶に始まり、森永名大教授(元機械材料研究室教員)の乾杯、両退職教員ならびにOBの方々より懐かしいスピーチをいただき、和やかな同窓会は小林理事・副学長の閉会の辞をもって解散しました。両退職教員の製錬工学講座ならびに精密加工講座を中心に、多忙・遠方問わず、約100名近くの参加者で、盛況に豊友会が実行されました。これもひとえに企画運営にご尽力くださいました総会実行委員をはじめ、皆様の惜しみないご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

学内近況報告

生産システム工学系 系長 清 水 良 明

同窓生の皆様には、お変わりなくご健勝にて各職場でご活躍のことと存じます。

毎年のご報告の取り掛かりとして前回以来の教員の異動の話から始めさせていただきます。本年2月に古参の牧清二郎助教授が三重大学工学部へ教授として栄転されました。3月に研究基盤センター助手の川島貴弘さんが精密加工研究室に配置換になりました。また、4月には本学初めての寄附講座となったOSGナノマイクロ加工工学講座に、村上良彦さんを准教授として迎えました。なお、3月末で退職された堀内宰先生が本講座の客員教授として立ち上げに尽力されております。ここで突然ですが、4月から、助教授は准教授、助手は助教、教務職員は助手と呼称が変更されました。また、やはり3月末で退職された川上正博先生には、5月より客員教授として高専



との連携強化をはじめとする本学の発展を期した取り組みにおいてご協力をいただいております。一方、6月にシステム創製の林一雅助手が東京大学教養学部へ特任助教として、9月には材料機能制御の土谷浩一准教授が物質・材料研究機構へグループリーダーとして栄転されました。一方、川上先生の後任教授、寄附講座の助教についての人事も既に決定しており、近々の着任が予定されています。

さて、昨秋来、本学では30周年記念式典を盛況のうちに終え、記念事業の一環として学生交流会館の着工も始まっております。系でもJABEEの中間審査を無事終え、2008年度末までの認定を得ております。さらに喜ばしいことに堀内、川上先生の退職記念パーティーと連携して久しぶりの同窓会総会を6月に盛況のうちに開催し、楽しい時間を過ごしました。そこでは系内の幹事をはじめとする皆様の努力を得て、会則の制定、新会長の選出等を滞りなく行いました。これに

については是非、系のホームページにある同窓会へのリンク先 (<http://www.tut-ob.org/dept2/>) からご覧ください。

既にお感じのように系内の教員配置も近年大きく変化しています。併せて学内の再編への動きも加速してきています。このような動向に対しても「古い皮に新しい酒をつぐ」の轍を踏むことなく30周年の掛け声である「確かな礎から未来へ」向かっていきたいと思っています。開かれた大学の社会への直近の窓口は、確かな礎を作った同窓生皆様であります。どうぞ同窓会を中心として連携の輪が広がるようにまわりに声をお掛け頂きたく存じます。そして伝統ある母校に育つよう、加えて本系がものづくりのメッカであり続けられるよう是非暖かい、また一面では厳しい励ましをかけるよう切にお願いいたします。

【材料工学講座】

教 授：梅本実、戸田裕之（系長補佐）
准教授・講師：竹中俊英、横山誠二、小林正和
助 教：戸高義一

【生産計画学講座】

教 授：清水良明（系長）、寺嶋一彦（学長補佐）、
章忠
准 教 授：三宅哲夫、Batres Rafael、三好孝典
助 教：今村孝、野田善之

【加工学講座】

教 授：森謙一郎、福本昌宏（未来ビークルリサーチセンター長）、柴田隆行
准 教 授：安井利明（未来ビークルリサーチセンター）
助 教：安部洋平（研究基盤センター）、山田基宏、
川島貴弘

技術専門職員（技官）：小楠和彦、椿正己

【OSG ナノマイクロ加工学講座】

柴田隆行（兼任教授）、村上良彦（准教授）、
堀内幸（客員教授）

事 務 室 小坂和子、波木井真美子

（平成19年9月現在）

【退職教員より】

工学＝工夫？

生産システム工学系 名誉教授 堀 内 幸

豊橋技術科学大学に着任したのは、一期生が大学院修士課程に進学した1980年でした。それまで勤めていた大学では、学園紛争の名残でまだ消極的であった産学連携を、豊橋技科大は積極的に推進すると学风が大きな期待を持たせてくれ、学生、教職員ともに一丸となって新しい大学の立ち上げに汗を流した日々を思い出します。主な建物は完成していましたが、中身についてはまだ十分といえる状態でなく、とりあえずあちこちからかき集めたものを分解修理して実験装置とし、そんな中で工夫と実験を重ね、立派な修士論文を書き上げて巣立って行った学生諸君の、その後の活躍ぶりには驚かされます。「若いときの苦労は買ってでもせよ」とは、よく言ったものです。

豊橋技科大に来てから、研究のやり方が変わりました。それまでの研究は、既存の技術あるいは他人が開発した新技術を対象とし、それらの有効性や問題点を明らかにすることであり、いわば「技術を科学すること」でしたが、しかし豊橋技科大では「新しい技術を開発する」ことに専念しました。たとえば、最初に取り組んだ研究は円筒研削に関するもので、熟練技能者しか得ることができなかった真円度 $0.1\mu\text{m}$ を、また当時の研削盤では困難であった円筒度 $0.1\mu\text{m}$ を、初心者でも実現可能にするための新しい機能を備えた精密円筒研削盤を開発することでした。その後も、「超精密」を「現在の精度レベルを超えようとする意気込み」と勝手に解釈をして、超精密加工における精度追求の挑戦を続けました。いろいろ工夫しましたが失敗も多かったように思います。工夫は、ときには改善（前

進）であったり、またあるときには改善（後退）であったりします。もちろん成功すればうれしかったですが、でもその前に、学生諸君と一緒に考え工夫し挑戦すること、そのこと自体が大きな楽しみでした。ときどき授業でも、「技術者になってから積極的に工夫できるように、今からいろいろ学んで多くの知識を蓄積して行こう」と呼びかけたように思います。しかし、学部1、2年生に工夫を実践して楽しんでもらう授業を提供できなかったことは心残りです。

豊橋技科大での27年間は長いようであつという間でした。いろいろなことが思い出されます。ともに学び挑戦した学生諸君をはじめ、それなりに快適かつ充実した日々を過ごさせていただいた豊橋技科大の教職員の皆様、そして親しくお付き合いさせていただいた学会・産業界の方々にも心よりお礼申し上げます。

最後に、豊橋技科大のますますの発展と皆様のご活躍を祈念します。まだしばらくの間、寄附講座「オーエスジーナノマイクロ加工学講座」の客員教授として微力ながらお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



木曾駒ヶ岳 07.08.13

【退職教員より】

豊橋技科大の30年を顧みて —感謝—

川上 正博

私は昭和53年4月に第一期生を迎えると同時に、助教授として本学に着任しました。しかし、その前年度の入学試験の時から、呼び出されていました。一番印象的だったのは、3年次編入学生の入試でした。中でも推薦選抜試験は特に記憶に残っています。確か8月の暑い日でした。会場は豊橋東高校だったと思います。面接試験にあたって、初代榎学長が言われたのは、「その学生を教えたかどうかで判断しなさい。」でした。ふつうは客観的判断を要求されるのですが、このように主観的判断が良いという学長のお言葉に新しい大学に対する積極的な意欲を感じ、奮い立ったのを思い出します。

新しい大学の第一期生というのは、どこでも優秀な学生さんが集まるものですが、本学の場合、高専生の待望の大学でしたので、創設をまって浪人していた人や会社を退職してきた人もおり、特別に優秀かつ意欲的な学生さん達でした。ですから、学長のおっしゃる通り主観的判断をしないととても決められませんでした。

いよいよ開学すると第3年次編入学生の担任を仰せつかりました。学生さんの要求を西系長にとりつぎ、「君はまだ学生気分が抜けないのか」と叱られたことを思い出します。もっと困ったのは、電算機応用という授業を担当させられたことです。私は計算の道筋が辿れないと気持ちが悪いので、ブラックボックスの電算機で答えが出るのは潔しとせず、コンピューターは嫌いでしたし、勉強していませんでした。しかし、西

系長は「君は若いんだから勉強しろ」とゆるしてくださいませんでした。ですから、内容を数値計算法に重きを置くことにしました。それとても初めて勉強することでしたから、1週間勉強したことを一日の講義で吐き出し、また、1週間勉強という繰り返しでした。最後はプログラミングで終わる訳ですが、それは学生さんの方が詳しく、私の言うことをただニヤニヤ聞いているだけで、冷汗をかきながらの講義でした。

もうひとつ困ったことが起きました。それは4年生の研究室配属で、ほとんどコンピューターしか興味のない学生さんが配属になりました。そこで、コンピューターを使う研究テーマを設定しなければなりません。しかし、その学生さんは極めて優秀で、いろいろなことに着目し、「先生一緒に勉強しよう」と誘ってくれました。おかげで、コンピューターのプログラミングはもとより、実験計画法、不規則信号処理法、統計処理法、計量形態学など、全く新しい分野を勉強することとなりました。その後も、優秀な学生さん達に恵まれ、28年間、大いに研究生活を楽しむことができました。同窓生の皆さん、どうもありがとうございます。



着任のご挨拶

生産システム工学系 特任准教授 村上 良彦

平成19年4月1日付でオーエスジーナノマイクロ加工工学講座特任准教授として着任いたしました村上良彦です。私は早稲田大学理工学部金属工学科卒業後直ちにオーエスジー株式会社へ入社し、38年間勤務し、本年4月定年退職いたしました。この間の職務は工具材料と熱処理、工具の性能評価、コーティング処理等の工具性能向上にかかわ



る研究開発でした。平成17年には本学において工学博士号を取得しました。現在は極微細加工に関わる研究ということで、具体的には100 μm 以下の極小径工具による極微細切削加工技術の開発に取り組んでいます。本講座は企業での経験を生かした実践的な講座でありたいと考えております。還暦を越えた新米教員ですが、もうひと花咲かせるべく頑張ります、よろしくお願ひします。

着任のご挨拶

生産システム工学系 講師 小林 正和

平成18年9月1日付けで生産システム工学系の講師として着任いたしました小林正和です。平成13年3月に宇都宮大学大学院 生産・情報工学専攻の博士課程を修了し、平成16年4月から豊橋技術科学大学の未来技術流動研究センター、VBLにおいて非常勤研究員として2年半勤務しておりました。現在、正式に生産システム工学系のメンバー



として働いていることをうれしく思っております。専門は材料工学分野で、戸田教授とともに材料保証研究室で材料の力学的性質、破壊や強度の問題を研究しています。私自身がまだまだ力不足でございますが、生産システム工学系および豊橋技術科学大学がいつそう発展できるように、皆様と力を合わせて頑張っていきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

着任のご挨拶

生産システム工学系 助教 川島 貴弘

平成19年3月1日付けで、生産システム工学系の助手（現、助教）として採用されました川島貴弘と申します。北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻博士後期過程を修了後、産業技術総合研究所および本学における博士研究員、研究基盤センター助手を経た後、現職に着任致



しました。これまで、半導体微細加工技術を用いた神経電位センサの開発や計測評価に関する研究に従事して参りました。現在は、マイクロ・ナノマシニング技術や生体現象の解明を目指したMEMS (Micro Electro Mechanical System) デバイスの開発に関する研究に従事しております。微力ながら本学の発展に寄与していきたいと考えております。卒業生・修了生の皆様、どうぞよろしくお願い致します。

研究室だより

計測システム研究室の近況報告

助教 今村 孝

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？
現在、計測システム研究室は、章忠教授（2004年着任）、三宅哲夫准教授、今村孝助教（2005年着任）に加え、堀畑聡客員准教授（現 日本大学松戸歯学部）、戸田浩客員准教授の計5名のスタッフと、学生21名（博士課程2名、修士課程12名、学部4年7名）の構成となっております。

研究内容としては、画像処理・信号処理の基礎研究に加え、自動車安全運転支援システムの構築、ヒトの行動解析と音や画像処理による生活・作業支援、知的診断へと応用展開しております。また、広く研究を公開することを目標に、学会発表や展示会への出展を各種行事やコンパと同様に学生が中心になって活発に行い、活気のある研究室となっております。研究室の近況はWebページ (<http://is.pse.tut.ac.jp>) でも公開しております。ぜひご覧ください。

最後に、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍を祈念するとともに、今後も計測システム研究室へご支援頂きますようお願い申し上げます。



材料保証研究室の近況報告

材料工学講座 修士 2 年 南 恵 介

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。材料保証研究室は、2007年4月に旧医療・福祉材料工学研究室から名称を変え、現在戸田教授、小林講師を中心とし、研究員2名、博士課程1名、修士課程13名、学部7名の計25名で研究活動を行っております。現在は、

- 放射光イメージングを利用した3D/4D解析
- 先端および慣用材料の創製と破壊特性評価
- 力学的性質の研究

といったグループに分かれ、日夜研究活動を行っております。研究室の詳細・近況については当研究室のホームページ<<http://sp-mac4.pse.tut.ac.jp/>>をご覧ください。

研究活動以外にも、新入生歓迎会、研究室旅行、忘年会、卒業生送別会等を企画し、研究室内の交流を図っております。

最後になりましたが、今後とも卒業生・修了生の皆様方のご健康、ご活躍を祈念するとともに、研究室を暖かくご支援下さることを心よりお願い申し上げます。



精密加工研究室の近況報告

助教 川 島 貴 弘

卒業生・修了生の皆様、こんにちは。

現在の精密加工研究室は、昨年度をもって堀内先生が定年を迎えご退官されたのに伴い、スタッフが、柴田教授、川島助教となり教育研究を進めております。研究テーマは、半導体微細加工技術をベースとしたマイクロ・ナノマシニング技術およびMEMS (Micro Electro Mechanical System) デバイスの開発であり、これまでとは大きく方向転換を致しました。一方で、寄附講座であるオーエスジーナノマイクロ加工工学講座が、機械加工による微細化をテーマとして今年度よりスタートし、兼任で柴田教授、オーエスジー株式会社より村上準教授がご着任され、堀内先生が客員教授として本寄附講座の運営に携わっておられます。現在の研究室は、修士課程11名、学部生7名、研究生1名の計19名の学生と秘書1名で構成されており、これらのテーマに関連した研究に日々励んでおります。

今年になり、堀内先生の最終講義 (3/15) や同窓会総会・二次会 (6/30) と大きなイベントが執り行われ、多くの卒業生・修了生の方々にご参加いただきました。残念ながら今回ご参加いただけなかった方々が多数いらっしゃいますが、是非、豊橋にお越しの際には、研究室にお立ち寄りいただき、叱咤激励のお言葉を頂戴できればと思います。研究室一同心よりお待ちしております。

おります。現在の研究活動状況等も含め詳細については、ホームページ (<http://pm.pse.tut.ac.jp/>) にて公開してまいりますので、お時間のあるときにでもご覧いただければと思います。

最後になりましたが卒業生・修了生の皆様の今後の更なるご活躍を心よりお祈りすると共に、今後も精密加工研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。



豊友会事務局から

平成 18 年度収支報告

収支の部

前年度繰越金	3,977,247
会費 (各系分配金)	590,000
普通預金利息	2,192
収支合計	4,569,439

支出の部

会報等発送作業代	30,000
会報等発送代	201,080
名簿更新作業代	4,500
次年度繰越金	4,333,859
支出合計	4,569,439

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
FAX: 0532-44-6690
E-mail: admin-2@tut-ob.org
URL: <http://www.tut-ob.org/>

会 長	中川 真
副 会 長	三好 孝典
会計担当	戸高 義一
会報担当	山田 基宏
名簿担当	安部 洋平, 今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

第三・第四工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

電気・電子工学系

同窓会役員一同

修了生ならびに卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと思います。昨年の開学30周年記念行事におきましては、皆様の温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。今年度、本学は、21世紀COEプログラムに続き、グローバルCOEプログラムにおきまして、「インテリジェントセンシングのフロンティア」が採択されました。電気・電子工学系はその中心的な役割を担っており、教職員一同、これまで以上に教育・研究活動に精進いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、電気・電子工学系では、次のように教職員の異動がありました。平成19年3月末をもって電気システム工学分野教授の恩田和夫先生ならびに電子デバイス工学分野教授の米津宏雄先生が定年退職されました。また、基礎電気・電子工学分野の申光鎬先生が韓国・慶星大学の准教授に、電気システム工学分野の荒木拓人先生が横浜国立大学の准教授に、電子デバイス工学分野の川島貴弘先生が本学生産システム工学系の助教に、それぞれなられました。また、平成19年4月に電気システム工学分野教授として櫻井庸司先生を、基礎電気・電子工学分野准教授としてBaryshev Alexander先生を、同助教として金周映先生をお迎えし、同年5月に電子デバイス工学分野助教として河野剛士先生をお迎えしました。また、電気・電子工学系内では、電気システム工学分野の滝川浩史先生および電子デバイス工学分野の澤田和明先生が教授に、電子デバイス工学分野の岡田浩先生、古川雄三先生が講師に、それぞれ昇任されました。

系事務室では、三輪恵子さんが学生課に移られ、浅井なをみさんが退職されました。また、新たな事務補佐員として斎藤陽子さんを、グローバルCOE事務員として杉浦寛子さんと小林祐子さんをお迎えしました。

平成19年2月には、大学近くに国道23号バイパスのインターチェンジが開設され、名古屋方面へのアクセスが格段に良くなりました。お近くへお越しの際には、ぜひ、大学までお立ち寄り下さいますよう、お願いいたします。

情報工学系

菅谷保之

修了生、卒業生の皆様方におかれましては、各方面にてますますお元気で活躍されていることと思います。昨年は無事開学30周年を迎えることができました。これも開学以来本学の発展にご尽力くださった教職員の皆様と修了生、卒業生の皆様のご支援のたまものであります。最近では学生の理科離れなどの社会的な変化への対応や学内再編の動きなど我々が抱える問題はさまざまではありますが、よりいっそう社会との連携、高専との連携を強めて本学および情報工学系の発展のために頑張っております。

さて、情報工学系では今年もたくさんの先生方の異動がありました。まず平成18年3月31日をもって情報システム工学分野の横山光雄先生が定年で退職されました。また1月には小宮常康先生が電気通信大学准教授として、4月には福田浩士先生が広島市立大学の講師としてそれぞれご昇任・栄転されました。一方、3月には阿部洋丈先生が情報システム工学分野の助教として加わりました。また、4月には情報処理工学分野の教授として三浦純先生、情報システム工学分野の教授として大平孝先生、計算機工学分野の講師として杉原真先生、計算機工学分野の助教として山本一公先生、が加わりました。さらに、7月には中内茂樹先生が教授に昇任されました。

昨年に引き続き学内再編の動きなど大学の環境が大きく変化しつつあり、ますます我々の手腕が問われてきております。教職員一同これからも技科大、情報工学系のために教育・研究活動に精進していく所存でありますので、今後もよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

◆ 電気・電子工学系

〈基礎電気・電子大講座〉

教授：太田昭男，福田光雄，井上光輝
准教授：服部和雄，中村雄一，内田裕久^{*1}，
Baryshev Alexander

助教：稲田亮史，内海淳志，金 周映^{*1}

〈電気システム大講座〉

教授：長尾雅行，滝川浩史，櫻井庸司
准教授：乾 義尚
助教：村上義信
助手：桶真一郎
技官：日比美彦

〈電子デバイス大講座〉

教授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明
准教授：朴 康司，原田八十雄，高尾英邦^{*2}
講師：岡田 浩，古川雄三
助教：河野剛士
技官：足木光昭

◆ 情報工学系

〈計算機大講座〉

教授：中川聖一，藤戸敏弘
准教授：廣津登志夫，秋葉友良^{*3}
講師：杉原 真
助教：岡本吉央，山本一公
技官：片岡嘉孝

〈情報処理大講座〉

教授：青野雅樹，栗山 繁，三浦 純
准教授：福村直博
講師：菅谷保之
助教：関 洋平，向井智彦

〈情報システム大講座〉

教授：田所嘉昭，梅村恭司，大平 孝
中内茂樹
准教授：上原秀幸^{*2}，和田和千
助教：夏井雅典，阿部洋丈
技官：宮脇治雄

◆ 事務官

丸山利美，加藤仁美，加藤絢加，斉藤陽子

◆ グローバルCOE事務員

杉浦寛子，小林祐子

※1 研究基盤センター

※2 未来ビークルリサーチセンター

※3 メディア科学リサーチセンター

◆ 同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

稲田亮史，村上義信，内海淳志，桶真一郎，
河野剛士

E-mail: admin-3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

向井智彦，山本一公，野口健太郎（沖縄高専），
福田浩士（広島市立），武田善行（東京大学）

E-mail: admin-4@tut-ob.org

平成 18 年度

電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

■収入の部

平成 17 年度繰越金	6,989,808
平成 17 年度終身会費入金分	1,010,000
預金利息	3,373
収入合計	8,003,181

■支出の部

平成 18 年度会報発送費	239,315
平成 18 年度会報発送作業費	132,358
平成 18 年度国際学会発表奨励金	200,000
小計	571,673
次年度繰越金	7,431,508
支出合計	8,003,181

～退職教員より～

元電気・電子工学系 教授 恩田 和夫

今年の3月で豊橋技科大を停年退職しました。思えば、大変充実した11年で、学生さんが想像以上に良くやってくれましたので、最終講義でも述べさせて頂いたのですが、土日が無い程研究に没頭し、めでたく現役生活を卒業させて頂きました。

11年前、平成7年の暑い9月に、筑波にある電子技術総合研究所（現・産業技術総合研究所）から、縁あって豊橋の地に移って参りました。それまでは中間管理職のような仕事が多く、歳と共に研究の現場に立ち難くなるのが不満でした。現役生活を終える前にもう一度、研究の現場に戻りたいと思っていたとき、大学への移籍話がありましたので、喜んで豊橋の地に参りました。それも東京に居ると、学会や工業技術院など関連する仕事が多いので、できれば東京の地を離れ、研究に多くの時間を割きたい望みがありました。

豊橋の地に来て、ただ一つの誤算を除いて、この望みは見事に叶えられました。誤算は学生さんが実に良く研究をしてくれた点で、そのため、私も研究を懸命に進める羽目になりました。研究テーマを電子技術総合研究所時代から引き継いだ四つ（燃料電池、水電解、二次電池、放電化学）とし、学生さんを四つのグループに分け、ゼミでじっくり研究テーマを勉強してきました。ところが技科大生は、聞き及んではいましたが、実に理解も早く、手足が動き実験も早いので、予定以上に研究が早く展開しました。そうすると学会発表や投稿論文が増え、更に研究資金も必要となり、私は投稿論文の推敲や研究助成への応募と、豊橋に来て2～3年も経つと土日に休む暇もなくなり、家族の待つ筑波に帰ることも少なくなりました。

無論、得られた研究成果は世の判断に委ねられますが、私としては十二分に研究に没頭できた11年間でした。私がこれ程忙しかったので、多分、学生さんや助手の方々ももっと忙しかったのではと反省しています。しかし、学生さんも世の中に出れば、仕事はきついこともありますので、その社会勉強の一端を事前に経験できたのではと勝手に思っています。3月に無事、技科大を卒業し、今は筑波に戻りホットしています。これから、18歳人口が減り、日本の歩む道は益々険しくなると思われれます。技科大の建学当時の気持ちを思い出し、教育・研究の原点に戻り、嫌なことでも先送りせず、果敢に困難に立ち向かわれることを祈念しつつ、重ねて御礼申し上げます。

元副学長、電気・電子工学系 教授 米津 宏雄

3月23日の卒業式は、卒業・修了する学生諸君と共に私自身の卒業式であると、進みゆく式の中で思いを馳せた。教授兼副学長として、教育・研究および管理運営にと、上空飛行をしたままで、3月末の定年退職という強制着陸になった。4月以降7月中旬まで、国際会議や国内研究会の招待講演とその前の原稿書きに追われ、8月に入ってやっと少し新たなモードへスイッチできるかという状況になった。このように、研究の残務が多いこともあって、客員教授という立場をいただいている。

4月初めに持ち帰ったままの書籍や論文等の研究資料が我が家の一室を占めていたが、最近になって整理を始め、やっと半分位に減った。後ろ向きにならないために、これから必要なもの以外は残さないと自分に言い聞かせながら対処している。「立つ鳥跡を濁さず」に近い状況にしないと、新しいモードへ飛び立つ力を強くできない。しかし、この猛暑では、このような作業をする気がなかなか出ないのが正直なところである。ここは、思い切って夏休みにして、約40年間ひたすら歩いてきた疲れをとって英気を養うことにし、猛暑の峠を越した後、残り半分の整理を終えようと思っている。この夏休みに、これからの講義や著作の準備に入り、少し時間を作って、散歩、トレーニングジム、音楽、温泉、テニス等を加えたいと思っている。ちょっと欲張りすぎなので、話半分として。

一方で、長年の研究活動は身にしみ込んでおり、それは基本的な活力源でもある。また、講義の準備も現役時代より落ち着いてでき、丁寧に講義ができることも実感した。著作も落ち着いてできることを期待している。国関連の機関の委員会や研究会を通して興味ある分野の研究・開発状況を学ぶと共に、本学での講義や著作、そして応用物理学会のお手伝い等もしながら、社会に役立ちたいと思っている。

定年近くになって強く実感したことがある。それは、今やろうとしていることが、対象としている人のためになるか、その人が属している組織のためになるか、ひいては世のため人のためになるか、と心新たに問うことであった。この三つがYesなことには、揺るがない気持ちで臨むことができた。これからも、上記の活動を通して、この考えを一層高めていきたいと思っている。

～退職教員より～

元情報工学系 教授 横山 光雄

本年3月末日をもち、豊橋技術科学大学（情報工学系）を定年退職致しました。昭和39年に郵政省電波研究所に入所し衛星通信や陸上移動通信の研究にたずさわわり、その後、平成8年7月から約11年間、大学で継続して通信の研究を行えるという幸運に恵まれました。この間、公私にわたり教員、事務の皆さんそして学生諸君より多くを学ばせて頂き、助けて頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

退職後、豊橋から埼玉への引越し、家の改築、荷物の整理、長男夫婦から北海道旅行のプレゼント、研究室を巣立った3組の学生の結婚式、名誉教授の称号授与式、そして7月初旬の技科大での集中講義などがあり、目まぐるしく過ぎ去った5ヶ月間でした。この間、帯状疱疹を患い、再度の白内障治療など、辛い日々でもありました。

戦国武将伊達政宗は晩年に『酔余口号』という次のような漢詩を残しています。「馬上少年過、世平白髪多、残軀天所赦、不樂是如何（若いときは戦場の馬上にあり、平和な世を迎えて白髪となった、天から頂いたこの身体、楽しまずにいられようか）」。「第一の人生は郵政省の研究所で30年、第二の人生は技科大で11年、そして、これから第三の人生を歩もうとしています。これまでは、蓄積と達成の人生でした。定年を迎え伊達政宗の漢詩にあるように、自分のやりたいことを思う存分時間をかけて楽しみたいと思っています。その一端を紹介しますと、若いときに憧れていましたが、忙しさの余り手付かずだった「ピアノ、俳句、読書、絵、落語、写経、語学（英語、韓国語）など」の趣味を、一流を望まず、つまみ食いでも多くを楽しみたいと思っています。ジャンクリストフの生き方に感動し、試験の準備も忘れて読みふけたロマン罗兰の小説—青春時代のあの頃に感動した沢山の本を、もう一度じっくり時間をかけて読み直したいと思っています。しか

し、人は何か生きがいを持たないと活力を失います。今まで得た専門の知識を、社会貢献に役立てられないかと思慮しました。近年、数学離れが益々顕著になっています。そこで、積分が必要なフーリエ変換で説明した著書を、代数的な処理のラプラス変換で記述することをライフワークとして準備しています。これにより、積分が苦手な学生でもラプラス変換さえ出来れば、後は単なる代数演算だけで通信理論を理解し、更に技術革新に寄与できる力を獲得できると思うからです。

原稿を書きながら高校野球の決勝戦をみていたら、佐賀北（佐賀）が広陵（広島）を八回裏で劇的な満塁本塁打で逆転し、5対4で破ると言う感動的な試合を目の当たりにしました。八回表までの試合結果なら、当然広陵が優勝すると誰もが予想した試合です。それまで零だった試合を、最後まで粘った佐賀北が優勝を勝ち得たのです。同窓生の皆さん、この佐賀北の最後まで諦めない生き方を教訓にしてください。どんな逆境にあっても決して諦めず、粘りに粘るという生き方を学んで欲しいです。

日本では、破産で挫折すると「人生の落伍者」の烙印を押されます。しかし、アメリカでは、大きな失敗は、一時的に運に見放されただけで、次に大成功を収める可能性を秘めた人物とみなされます。大きなリスクを背負う者だけが、偉大な成功者になるというのがアメリカンドリームで、リンカーン、カーネギー、フォードなどのように挫折を繰り返しても最後には大成功を収めています。科学の面では、ノーベルのニトログリセリンの安定化、キュリー夫人のラジウムの発見、そして、グッドイヤーのゴムを安定化する方法の発見など、途中で諦めないために成功した事例を掲げるには、枚挙にいとまがありません。感動や喜びは、苦労した量に比例して、大きなものになります。どうか、皆さんが、途中で諦めず大望を成就されることを祈っております。

3・4系同窓会国際学会発表奨励金

平成17年度より、系内同窓会活動の活性化および大学への貢献事業として、国際学会での研究成果発表を行う3・4系学生への奨励金助成を行なっております。平成18年度ならびに19年度前期については以下の4名（3系1名、4系3名）に助成を行いましたのでご報告させていただきます。（平成18年度後期は現在（平成18年8月末）公募中。採択決定しだい同窓会HPにて報告予定です。）

平成18年度 3・4系同窓会国際学会奨励金採択者一覧

系	学 年	氏 名	渡航国	国際学会名称
3	修士2年	木村 あゆみ	カナダ	IEEE International Ultrasonic Symposium
4	修士2年	前田 大輔	韓国	The 3rd IEEE VTS Asia Pacific Wireless Communications Symposium
4	修士2年	吉留 天則	台湾	OptoElectronics and Communications Conference

平成19年度前期 3・4系同窓会国際学会奨励金採択者一覧

系	学 年	氏 名	渡航国	国際学会名称
4	博士2年	秋田 一平	アメリカ	2007 IEEE International Symposium on Circuit and Systems

なお、本年度後期募集分より、グローバルCOE採択による博士後期課程学生の支援充実に伴いまして、同窓会としては修士学生の国際学会発表を重点的に支援していきたいと考えております。したがって、奨励金への応募資格は原則修士学生のみとすることとなりました。また、これまでの申請件数を考慮し、今後は採択件数を年間5～6件程度に半減し、奨励金額を10万円と倍増することを決定いたしました。

国際会議参加報告

電子・情報工学専攻 博士後期課程2年 秋田 一平

私はこの度、2007年5月27日から30日にかけて、アメリカ・ニューオーリンズで開催された「2007 IEEE International Symposium on Circuits and Systems (ISCAS)」に参加致しました。ISCASは電子回路一般、またはシステム等の理論、実装に関する主要な国際学会の一つであり、今年の採択率は49%、発表は1000件近くありました。私は低電圧アナログ回路に関する発表を行い、多くの研究者から激励や有益なコメントを頂きました。また、関連するセッションでの聴講時には積極的に質問するなどして、他の研究者とのコミュニケーションもとれ、有意義な時間を過ごすことができました。最後に、3・4系同窓会国際学会発表奨励金に採択して頂いたことに深くお礼申し上げます。

研究室だより

フォトニクス研究室

電気・電子工学専攻 修士1年

小玉 豊久

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で日々ご健勝のことと存じます。

それでは、本研究室の近況を報告します。現在の研究室の構成は、福田光男教授、内海淳志助教を中心として修士8名、学部4名の計14名です。研究室発足から四年目を迎え、研究設備も充実し始め、研究室一丸となって日々研究に勤しんでおります。また、修士二年の3人も就職が決まり、いよいよ研究に全力を向けているところであります。

研究内容は、近接場光を用いたナノスケールデバイスの研究開発、農業・環境・医療計測を対象とした光波応用の研究開発を行っています。昨年と変わった点では人数の増加に伴い、センシング、光源、変調、検出器グループと四つのグループに分かれて研究を進めております。

研究室行事として、新入生歓迎会、納涼祭、忘年会、追出しコンパなどを行い、これらの活動で日ごろの研究の疲れを癒すとともに研究室の親睦を深めております。昨年は忘年会にOBの参加者がおり、非常に盛り上がったことを記憶しております。もしご都合のつく方がいれば、これからも各行事に参加していただ

ればと思っています。

本研究室の情報については福田研究室のwebページ(<http://www.photon.eee.tut.ac.jp>)にて公開していますので、お時間のある時に一度目を通して下さい。

皆様ご多忙とは存じますが、豊橋へ来られる機会がありましたらお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。福田研究室一同心よりお待ちしております。その際、大学在学中や就職活動、実際の現場での貴重な体験などの話を聞く事ができれば幸いです。

最後になりましたが、OBの皆様の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



プラズマエネルギーシステム研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

篠原 賢司

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在、プラズマエネルギーシステム研究室は、滝川

浩史教授を中心として、桶真一郎助手、博士1人、修士9人、学部4年4名の計16名というメンバーで日々、研究に取り組んでおります。

現在の研究テーマとしましては、プラズマエネルギー

ギーシステム研究室内に、プラズマナノマテリアル分室と、太陽エネルギー変換分室の二つを設けまして、プラズマナノマテリアル分室では、「フィルタードアーク蒸着装置を用いた機能性薄膜の合成」「大気圧プラズマ処理」「ナノカーボン材料の合成と応用」に取り組んでおります。

また、太陽エネルギー変換分室では、「自然エネルギー利用」に関する研究に広く取り組んでおります。「フィルタードアーク蒸着装置を用いた機能性薄膜の合成」に関する研究では、当研究室で開発したフィルタードアーク蒸着装置を用いて、ダイヤモンドライクカーボン膜と複合金属膜の2つのテーマで超硬質膜、多機能膜としての可能性を探り実験に取り組んでおります。「大気圧プラズマ処理」に関する研究では、グライディングアーク装置やPEN-JETアーク装置などを開発し、大気圧下で簡易的にプラズマ処理を施し、表面の改質等への応用について研究を行っております。

「ナノカーボン材料の合成と応用」に関する研究では、アーク放電法とCVD法（気相成長法）の両面からナノカーボン材料の大量合成に取り組むとともに、ナノカーボン材料の応用として燃料電池、キャパシタ等



の電極材料や電子放出源といった新しい分野にも挑戦しています。

「自然エネルギー利用」では、気象予測システムなど、自然エネルギーを利用する際に必要なデータを簡単に手に入れられるシステムを目指し、日々研究を行っています。

現在、研究室のWebサイトで研究室の情報を公開しておりますので、お時間のあるときにでも、ご覧下さい。また、豊橋方面へ来られた際には、どうぞお気軽にお立ち下さい。研究室一同、心から歓迎いたします。

音声言語処理研究室

電子・情報工学専攻 博士後期課程1年

西村 良太

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。

現在、本研究室（音声言語処理研究室）は、中川聖一教授、山本一公助教、土屋雅稔助教の下、博士4名（留学生3名）、修士7名（留学生2名）、学部4名、技術専門職員1名、秘書2名の計18名で研究を行っております。留学生は、中国人2名、インドネシア人2名、ブラジル人1名の計5名であり、皆で交流をはかりながらそれぞれの個性を生かして楽しく研究に勤んでおります。

本研究室では、音声・言語処理に関わる研究を多岐にわたり行っており、現在は以下のようなテーマに取



り取り組んでおります。

- (1) 音声認識
- (2) 音声インターフェース

- (3) 学習支援システム (語学学習, 講義教材)
- (4) 質問応答システム
- (5) 音声対話システム

また, 研究成果の発表も盛んに行っており, 国内での発表はもとより, 国際会議にも積極的に参加しており, 多数発表を行っております。今年ベルギーでのInterSpeechや, チェコでのTSDへ参加し, 研究成果の発表をして参りました。本研究室では修士のうちに国際会議での発表を経験しておくことが目標の一つであり, 今回のInterSpeechでは, 修士1年の学生2名が発表をしました。

本研究室の行事としましては, 春には花見, 新入生歓迎会, 夏には研究室旅行(登山など), 冬には忘年会, 送別会があり, 季節ごとに日頃の労を労うと共に, それぞれの親睦を深めております。

研究室に関することについては, Webページ(<http://www.slp.ics.tut.ac.jp/>)にて公開しておりますので, よろしければこちらをご覧ください。

最後になりましたが, 卒業生・修了生の皆様方のご健康と, 更なるご躍進を祈念いたします。また, 近くにお越しの際は是非こちらへお立ち寄りください。

知識情報データ処理研究室

情報工学専攻 修士2年

杉山 典之

卒業生, 修了生, そして知識情報データ処理研究室のOB・OGの皆様, いかにお過ごしでしょうか。それぞれの職場において, 大いにご活躍しておられることと存じます。

現在の知識情報データ処理研究室は, 青野雅樹教授, 関洋平助教の2名のスタッフと, 博士1名, 修士11名, 学部4名の総勢18名で構成されています。本研究室は2004年度に設立され7名でスタートしましたが, 今年度は設立以来の最大人数となっております。

本研究室では, 情報検索・要約・可視化, Webマイニング・時系列データマイニングを中心テーマとして研究を行っています。具体的なものとしては, 三次元モデルの形状類似検索, ソーシャルブックマーク上の情報を用いたWebページ推薦システム, ニュース記事の位置情報抽出・可視化システムなどがあります。設立から4年目と若い研究室らしい, 新鮮で未開拓な研究テーマに取り組んでいます。研究成果については, 国内・海外を問わず積極的に論文投稿や学会発表を行っております。また, 今年度の本学のオープンキャンパスにおいても研究室公開を行い, 参加者から大きな反響をいただきました。

研究室の行事としては, 春に新入生歓迎会とボーリング大会, 夏にバーベキュー大会と情報処理大講座内



での研究室対抗スポーツ大会, 冬に忘年会などがあり, 研究室内の親睦を深めています。

お忙しいことと存じますが, 豊橋方面へと来られることがございましたら, お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同, 心よりお待ちしております。先輩方の貴重なアドバイスや卒業・修了後のお話をいただければ幸いです。また, 研究室のホームページ(<http://www.kde.ics.tut.ac.jp/>)にて, 詳しい研究内容, 研究成果や研究室の近況等について公開しておりますので, 是非ご覧ください。

最後になりましたが, 諸先輩方の今後のさらなるご活躍とご健康を, 心よりお祈りしております。

第五工学系

物質工学系より

系長あいさつ

物質工学系 系長 竹 市 力

同窓生の皆様にはますますご活躍のことと存じます。平素は大学および物質工学系に格別のご配慮、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。また、先般、本学が開学30周年という重要な節目を迎えました際には、多くの皆様から30周年記念事業の寄付金を賜り、誠にありがとうございました。



私は本年4月に青木先生から系長の大役を引き継ぎ、早くも半年が過ぎました。大学の変革期にあたり、重責に身が引き締まる思いで系の発展のため精励恪勤しています。さて、大学は2005年4月に国立大学法人となったのを契機に、第1期中期目標・中期計画の遂行に向けて大幅な改革が進められています。その中の大きな柱の1つが大学の組織改革であり、現在8つある工学系を4つの工学系に再編するという案で固まりつつあります。また、開学以来継続されてきた3学期制を、多くの大学が採用している2学期制にするという案も出ており、検討されています。

その他全国的な改革にあわせて教員の役職も変わりました。従来は教授、助教授、講師、助手、教務職員でしたが、2007年4月から助教授が“准教授”に、助手・教務職員が“助教”あるいは“助手”に変更されました。それに伴い、職務内容も大幅に変更になり、助教が講義をすることができるようになりました。

5系関連の人事異動は昨年度の会報の発行以降4件ありました。まず、長年にわたり5系の教育・研究にご尽力いただきました西宮伸幸助教授が2007年4月1日付けで日本大学理工学部へ転出されました。2006

年10月1日付けで松田厚範先生が教授に昇進され、2006年10月16日付けで河内岳大先生が名古屋大学から助手として赴任されました。河内先生は以下の新任教員の自己紹介にありますように、高分子化学がご専門であり、他の助教および助手と切磋琢磨して一層“元気の5系”を作っていただきたいと思います。最近では、2007年10月1日付けで水嶋生智先生が准教授に昇進されました。このように、5系のメンバーも皆さんの在籍していた頃と少しずつ変わってきています。

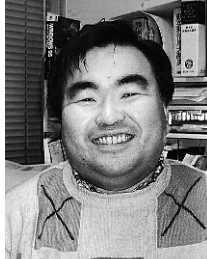
5系は2005年に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているという認定をいただいておりますが、この認定に関する中間審査が今年10月にあります。認定を受けて以来、不断の教育改革を行った成果がどのように評価されるか気にしつつ、より一層の教育改善に向けて教員一同頑張っています。

これまで技科大は高専卒業生を学部の3年次に受け入れ、修士2年間との一貫教育を基本としてきましたが、現在、高専では専攻科の定員を増やそうとしており、従来の高専と技科大の関係に変化がみられつつあります。技科大としては、高専との緊密な連携を保持しつつ、新たなステージに向けて独自性を発揮していく方策を見出すことが求められています。高専・技科大間の教員交流制度や、豊橋技科大と各高専との研究連携プロジェクトの立ち上げなどはその例になりますが、さらに教育制度においても独自性と他大学との違いをアピールすることが求められ、奮戦している状況です。今後予想されるより大きな変革に向けて、我々はより一層の努力をしていきますが、同窓生の皆様の中・長期的な視点からの変らないサポートをお願い申し上げます。

学内近況報告

物質工学系 水嶋 生智

卒業生、修了生の皆様、お元気で活躍のことと思います。前号でも紹介されましたように、本学も開学から30年が経過しました。私が本学5期生として入学したころに比べると、建物が増え、木々がずいぶん成長しました。当時は学部6課程、修士6専攻でしたが、現在では学部8課程、修士8専攻、博士4専攻となり、学生・教職員が増え、大学が大きくなったことを感じます。しかしながら、本学を取り巻く環境の変化に対応し競争力を強化するため、現在、学内再編の計画が進められています。それによると、「物質工学」という名称はなくなり、中身も大きく変わることとなります。OBの一人としてはちょっと寂しさを感じますし、今後の物質工学系としての同窓会活動がどうなるのか心配なところではありますが、今後の技科大の発展のためには仕方ない面もあり、少々複雑な思いです。



さて、物質工学系の近況報告として、本年4月にありました変化を以下にご紹介します。

- 西宮伸幸助教授が日本大学理工学部物質応用化学科に教授としてご栄転されました。何事にもエネルギーギッシュに取り組んでおられた西宮先生がいなくなるのは寂しいですが、今年度中は講義や学生の研究指導を担当されているので、ときどきお顔を見ることが出来ます。
- 竹市力教授が系長に、角田範義教授が系長補佐に就かれ、両先生を中心に系が運営されています。
- 開学以来、大講座名として「工業無機化学」、「工業分析化学」、「工業有機化学」が使われてきました

が、現在の研究内容を的確に表しているとは言えず、また、多少古めかしいイメージがするという理由から、それぞれ「機能無機・物理化学」、「機能生命・分析化学」、「機能有機化学」に変更されました。

- 学校教育法の改正により、助教授は「准教授」に、助手・教務職員は「助教」または「助手」に名称変更されました。
- 伊藤浩一名誉教授と亀頭直樹名誉教授には、非常勤講師として、今年度1・2学期の「物質科学技術英語」の講義を担当していただいております。

以上のように、物質工学系としては例年よりも動きが多かった年度初めであったと思います。現在の最大の関心事は、JABEE（日本技術者教育認定機構）の中間審査です。平成17年度に最初の審査を受けて2年間の認定をいただきましたが、さらに3年間の認定期間延長を目指し、本年10月下旬に中間審査を受ける予定です。そのためには前回の審査で指摘された問題点を改善し、それを証明するための膨大な資料を用意する必要があります。これまで着実に準備をしてきましたが、いよいよ本番を迎えるにあたり系内は少々あわただしい状況です。この同窓会報が皆様の手元に届くころには審査結果が出ていると思いますので、気になる方はホームページ等でご確認下さい。

本年度の就職状況は非常に良好で、早い段階でほとんどの学生が内定をいただきました。これには景気回復が大きく影響していることは間違いありませんが、卒業生、修了生の皆様のご活躍が社会で認められていることがその一因にあることも確かです。このことは、本学OBが求人案内や会社説明に訪れるケースが多かったことから窺えます。今後も皆様が益々ご活躍されることをお祈りするとともに、本学および物質工学系へのご支援をよろしくお願い致します。

研究室だより

角田・水嶋研究室

物質工学専攻 修士1年 三浦 公平

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様がそれぞれの職場において大いにご活躍していただけることと存じます。現在、環境触媒化学研究室は、博士1名、修士15名、学部生12名の合計28名で構成されており、角田範義教授、水嶋生智准教授と大北博宣助手の指導のもと、日々各々の研究に励んでおります。また、研究のみならず春にはお花見、夏には研究室旅行と、幾つかのレクリエーションを行い教員・学生の交流を深めております。

本研究室の研究内容を紹介致します。角田・大北研究室では、 $MgO-CeO_2-ZrO_2$ 三元系自動車触媒における酸素貯蔵能の評価、ハロゲン化銀系光触媒を用いた水-メタノール光分解反応、脱塩素化廃PVCを原料とした活性炭の製造とその機能特性評価、そしてスチレン製造を目的としたエチルベンゼンの酸化的及び単純脱水素反応用触媒に関する研究を主に行っております。また、水嶋研究室では、 MoO_3 触媒によるメタノール酸化反応、揮発性有機化合物のプラズマ分解反応、シリコモリブドケイ酸塩触媒によるメタノールの部分酸化反応に関する研究を行っており、両研究室において幅広い分野の触媒に関する研究を行っております。修士学生は日本化学会や触媒討論会に参加し、学部生は中部化学関係学協会支部連合秋季大会で発表する等、研究成果も残しております。

本研究室では、卒業を控えた学生は10月から就職活動に取り組み始め、その努力の甲斐もあり、多くの学生が6月中旬に就職活動を終えています。

諸先輩の皆様、お忙しいと存じますが、豊橋方面へ来られることがございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。最後になりましたが、卒業生、修了生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈りしております。



研究室旅行 (2007年7月27日～28日 三河温泉海遊亭にて)

神野研究室

機能材料工学専攻 修士1年 植田 郁生

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本研究室は現在、神野教授・齊戸助教の下、学生は博士課程4名、修士課程1名、学部生9名で構成されています。その内、海外からの留学生が8名と国際色豊かな研究室であります。

現在の研究テーマはガスクロマトグラフィー用試料前処理デバイスの開発、表面誘導体化繊維を用いた新規固定相の開発、超高压液体クロマトグラフィーの保持挙動の研究などです。

実験装置や器具は年々充実しており、この恵まれた環境の中、先輩方の残してくださった技術やノウハウを継承・発展させつつ日々研究に取り組んでいます。得られた研究成果は国内外の学会や論文として発表しております。近くに来られた際には、是非本研究室にお立ち寄り下さい。

末筆ながら研究室一同、皆様のご健康と更なるご活躍を願っております。

岩佐・柴富研究室

物質工学専攻 修士1年 武藤 翼

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍されていると存じます。では、この場をお借りして岩佐・柴富研究室の近況についてご報告させていただきます。

昨年度、当研究室より7名が社会へ旅立ちました。それに伴い研究室メンバーの数が大幅に減少し、現在は岩佐精二准教授、柴富一孝助教を中心として、博士課程1名、修士課程2名、学部学生3名の計8名で構成されています。現在、仮配属の学部3年生が新たに4名加わり、段々とにぎやかさが増してきました。

今年6月下旬から8月中旬までの約2ヶ月間、ベトナムより研修生が3名来日しました。実験室で一緒に実験を行うことになり慣れない英語に四苦八苦しながらも、互いにコミュニケーションをとりながら良好な関係を築くことができました。また、10月から、エジプトのTanta大学化学科から博士後期課程への入学が1名予定されており、国際色豊かな研究室になりそうです。

当研究室では遷移金属錯体を用いた不斉触媒の開発と、それらを用いた触媒的不斉反応への応用を展開し

ています。また、生理活性物質や分子センサーの開発も同時に行っており、基礎研究からそれらを基盤とした応用研究まで幅広く行っております。

卒業生の皆様、ご多忙とは存じますが豊橋に来られる機会がありましたら、どうぞお気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同心よりお待ちしております。

最後になりました諸先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈りしております。



新任教員より

河内 岳大

平成18年10月16日付で物質工学系助手として着任いたしました。久留米高専卒業後、大阪大学で学位を取得した後、科学技術振興機構八島超構造らせん高分子プロジェクトにて3年半ほど博士研究員として勤務しておりました。私の専門分野は高分子化学で、化学構造や分子量、立



体構造などを精密に制御した高分子の合成を行ってまいりました。今後はDNAに代表される生体分子のように、様々な機能を有する合成高分子の開発に取り組みたいと考えております。まだまだ不慣れな部分も多く、先生方、学生の皆さんにご助力いただく日々が続いておりますが、研究・教育を通じまして、少しでも本学の発展に貢献できればと考えております。同窓会の皆様、どうぞ宜しく願いいたします。

— 5 系同窓会会計報告 —

会報郵送料が予算より低かったのは、割引制度を利用できたためです。また18年度はホームページ修正を行わなかったため、0円となりました。その他の科目は昨年度と同様に執行しております。

また、19年度の前算も18年度同様に計上しました。

■収入の部

	平成18年度予算案	平成18年度決算	平成19年度予算案
前年度繰越金	2,221,241	2,221,241	2,513,283
会費	400,000	450,000	400,000
預金利息	20	1,117	1,200
小計	400,020	451,117	401,200
収入合計	2,621,261	2,672,358	2,914,483

■支出の部

	平成18年度予算案	平成18年度決算	平成19年度予算案
会報郵送料	180,000	111,865	120,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	15,000	20,210	20,000
謝礼	14,000	12,000	14,000
名簿管理経費	15,000	5,000	10,000
ホームページ作成費	5,000	0	5,000
小計	239,000	159,075	179,000
次年度繰越金	2,382,261	2,513,283	2,735,483
支出合計	2,621,261	2,672,358	2,914,483

第六工学系

建設工学系より

学内近況報告

建設工学系 准教授 真田 靖 士

同窓生の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。本学は30周年の節目を迎え、建設工学系一同も新系長の山田聖志先生を中心として、気持ちも新たに研究・教育活動に励む日々を重ねております。

さて、建設工学系では本年も教員構成に変化がございました。2007年4月に環境大講座の助教として對馬孝治先生が着任されました。對馬先生は東京農工大学を博士（農学）の取得とともに修了され、産業技術総合研究所で勤務されていました。専門は農学系で水環境の保全をテーマに研究されています。また、ご挨拶が遅れましたが、私真田も2006年12月に本学に着任したばかりの新米でございます。建築構造を専門としており構造大講座に所属しております。早速同窓会報に近況を報告せよとの使命を受け若干の戸惑いもございますが、こうして筆をとらせていただいております。私を含め2名の若手が新たに着任した一方で、2006年10月に環境大講座の山田俊郎先生が国立保健医療科学院・水道工学部に主任研究官として、2007年9月には計画大講座の加藤彰一先生が三重大学大学院・工学研究科・建築学専攻に教授としてそれぞれご栄転されております。山田先生は本学建設工学系におよそ6年間所属され、北尾名誉教授や井上教授の衛生工学研究室の助手としてエコロジー工学系の木曾教授とも連携してCOEプロジェクト研究などにご活躍されました。加藤先生は本学建設工学系におよそ10年間所属され、とくに本系のJABEE（日本技術者教育認定機構）認証に際し、建築コース担当としてご活躍されました。その手腕は三重大学でも高く評価され、今

後も教育活動を先導されるとのことです。

30周年に関連して様々な記念事業が進められておりますが、その中核事業の一環として、本系の松島史朗先生が学生交流会館をデザインされました。既にD棟の目の前で工事が始まっており、こうして文章を綴っている間もトンカンと着々と完成に近づく音が聞こえてまいります。同窓生の皆様には本事業に際し多大なご協力をいただいたことと存じます。この場を借りて改めてお礼を申し上げますとともに、私からの近況報告とさせていただきます。

教 職 員 一 覧

■新任

- 真田靖士（2006年12月から、前職は東京大学地震研究所・助手）
- 對馬孝治（2007年4月から、前職は独立行政法人産業技術総合研究所・特別研究員）

■転出

- 加藤彰一（2007年9月、三重大学・教授）
- 山田俊郎（2006年10月、国立保健医療科学院水道工学部・主任研究官）

■現職（2007年9月現在）

【構造大講座】

- 教 授：加藤史郎、河邑 眞、山田聖志（系長）
- 准 教 授：倉本 洋、三浦均也、真田靖士
- 助 教：中澤祥二、松井智哉
- 助 手：細野康代
- 技 官：金田隆文

【環境大講座】

- 教 授：松本 博、青木伸一（系長補佐）、井上隆信
- 准 教 授：加藤 茂（ICCEED 兼務）
- 講 師：宋 城基
- 助 教：對馬孝治
- 技 官：片岡三枝子

【計画大講座】

- 教 授：渡邊昭彦、広島康裕、大貝 彰
- 准 教 授：泉田英雄、松島史朗（CCR 専任）
- 助 教：谷 武、細田智久
- 助 手：中西仁美

同窓会名誉会員 元副学長 横尾義貫先生ご逝去

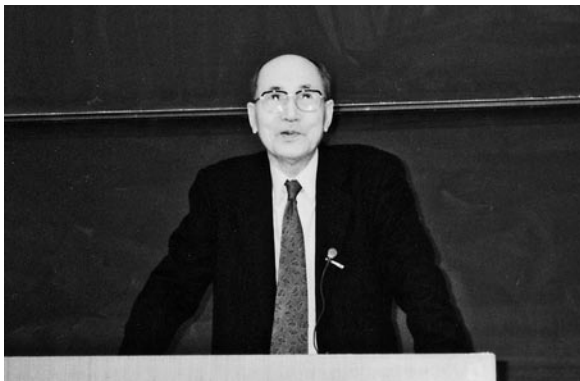
横尾先生を偲ぶ

教授 加藤 史郎

横尾先生は、略歴のように本学の開学に当たり副学長として赴任され本学の基礎を築くとともに、それ以降の本学発展に大きく貢献されました。先生は、建築構造学においてシェル・空間構造、地盤・基礎構造、鋼構造などの新しい分野を開拓し多くの精鋭を育てられ、建築界に大きく深く貢献されました。日本建築センター、日本総合試験所、鋼構造協会、土質工学会などの実務界を通して、さらに、建築学会会長として学界への貢献は絶大です。1964年には名古屋大学建築学科の創設に当たられ、中京地域の建築界へ指導、東海地域の地震防災研究の基礎固めなど、東海地域の建築界にも大きく貢献されました。

豊橋技術科学大学の建設工学系の創設にあつては、日本ではきわめて稀有なことですが、建築と土木の分野を統合する複合型の研究教育組織を見事に構成され、構造・計画・環境分野に渡る人材養成に尽くされました。複合型の研究教育により俊秀を送り出したことは、現在、本学卒業生の活発な各分野でのご活躍により実証されていますが、その結果、産業界・学界からも大きく評価されています。横尾先生は、生前は卒業生に会われるのを大変に楽しみにされていたましたが、現在皆様のご活躍をきつと喜ばれていると信じています。

横尾先生のご逝去は大きな悲しみですが、ここに、先生の本学の創設と発展へのご貢献、建築界へのご貢献に深い感謝と尊敬の念を捧げ、ご冥福をお祈り申しあげます。



略歴

- 1914年 誕生
- 1939年 京都帝国大学建築学科卒業、海軍建築部技手
- 1949年 京都大学教授(土木工学教室)
- 1953年 京都大学防災研究所教授
- 1954年 日本建築学会賞「殻理論に関する研究」
- 1959年 京都大学教授(建築学教室)、工学研究所教授
- 1964年 名古屋大学教授
- 1967年 京都大学教授
- 1969-70年 日本建築センター鉄鋼系委員会委員長
- 1971-72年 京都大学評議員、建設省技術審査会委員、日本建築学会副会長
- 1971年 国際シェル構造学会「張力構造と立体骨組」シンポジウム実行委員会論文部会長
- 1975-76年 日本建築学会会長、建設省住宅局建築審議会委員
- 1976-80年 文部省大学設置審議会専門委員
- 1977年 京都大学名誉教授
- 1977-80年 豊橋技術科学大学副学長(教授)
- 1978-80年 日本学術会議第11期会員
- 1985年 豊橋技術科学大学名誉教授
- 1986年 日本建築学会大賞「建築構造学、基礎工学の発展とその関連分野の振興への貢献」受賞
- 1986年 叙勲 勲二等瑞宝章
- 1991年 日本建築総合試験所理事長
- 2007年 1月28日ご逝去、叙位 正四位

横尾先生を偲んで

法政大学工学部建築学科 千葉 義尚

修士1回生の千葉義尚と申します。昭和52年秋の編入試験のことが大変懐かしく思い起こされます。それまで3年余り勤務していた建設会社を退職し、退路を断って、豊橋の編入学にかけました。筆記試験は予測通り、全く出来ませんでした。なぜか面接試験に残り、面接で初めて横尾先生にお会いしました。その時は、向学心旺盛な自分を演じるのに必死で先生を前に、建築構造を勉強したいと訴えました。出来の悪い、行き場所のない私を拾って戴きました。

当時、横尾先生は副学長を務めておられましたので、大変お忙しく、授業の時にだけお会いできるのみでした。今でも覚えているのは、建築振動学や変分法のご講義ですが、必死になって勉強しました。横尾先生直筆のプリントや当時の教科書は今でも私の書棚の中央に残っております。横尾・加藤研究室に属しておりましたが、横尾先生は私達にとっては大先生であり、研究は主に加藤史郎先生に見て戴いておりました。加藤先生から修論原稿を横尾大先生にお見せしてご意見を伺ってきたと言われ、恐る恐る、大先生のお部屋に参りました。それまで自分なりに想定問答集を準備

していたのですが、大先生は最も想定外の、私が最も訊かれないことを即座にお尋ねになりました。参りました。冷や汗の連続でした。

私事ですが、修論からのテーマである薄肉殻の座屈に関する学位論文を、横尾大先生にお送りしたところ、暖かい励ましのお手紙を頂戴したことが、つい、この間のことのように思い出されます。横尾大先生、有り難うございました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

新任教員より

准教授 真田 靖 士 (建設工学系 構造大講座)

平成18年12月に建設工学系の助教授(4月から准教授に職名が変わりました)に着任しました。学生、その後職員と、丁度10年ほど東京大学に在籍しておりましたが、出身は三重県ですので、久しぶりに地元(と申しましても、あと100km程ありますが)に戻ってきたことになります。着任日が本学の3学期初日でありました関係で、右も左もわからぬままに授業が始ま

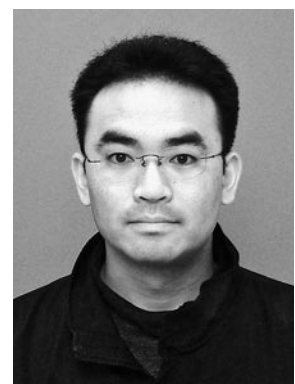
り、戸惑いながらの勤務でしたが、早半年以上を経て漸く新しい環境にも慣れてまいりました。専門は最近とみに評判が悪い建築構造学ですが、ほとんどの同業者の方々と同様“まじめに”取り組んでまいりました。東海地方は巨大地震に見舞われる危険性が高い土地柄ですので、微力ながらも私の経験を活かすことができれば幸いです。



助教 対馬 孝 治 (建設工学系 環境大講座)

2007年4月から豊橋技術科学大学の建設工学系助教に採用されました対馬です。農学部・農学研究科の出身なため、学位は博士(農学)です。工学とは縁遠い分野に身を置いていましたが、河川や地下水などの水質分析を行ってその変化の要因を研究している内にこの数年の所属では工学系の研究者と一緒に研究する機会が多くなりました。学位取得直後1年間は常勤の職が得られませんでした。2003年後から2005年度は(独)土木研究所で、2006年度は(独)産業技術総合研究所で任期付研究員をしていました。これらの独立行政法人での任期付研究員の他に2つの大学

で非常勤講師の経験はありますが、常勤で大学所属の教員となった経験はありませんでしたので現在は戸惑うことばかりです。特にこれまでは先生や先輩方に教えを請うてばかりでしたが、「先生」と呼ばれて教える側に立つことばかりになりましたので不安を感じています。それでも、一日も早く“豊橋市民で技科大の一員”となるように、研究や教育を始めとして日常業務や生活の環境に慣れていきたいと思えます。豊橋技術科学大学でも多くのことを吸収して、任期の切れないうちに周囲の方々に還元できるように精進してまいります。よろしく願いいたします。



研究室だより

渡邊研究室の近況

助教 細田 智久

渡邊先生は、本学へ1979年にご着任されて以降、130名近くの卒業・修了生をおくり出してこられました。2008年3月にご定年をむかえられることとなります。渡邊研究室の卒業生をはじめ、同窓生の皆様には、2008年3月初旬の最終講義、6月に予定している退職記念講演会・祝賀会にぜひ参加していただきたいと願っております。この祝賀会の夜には、渡邊研究室の同窓生によるパーティーも企画したいと思っています。

現在の渡邊研究室の学生は、学部5名、修士課程10名、博士課程1名が所属しています。研究グループは、①CGで仮想現実空間を作り出す2.7メートル四方の実験装置や両眼用アイマークレコーダーなどの最新の機材を使って病院外来部分の探索行動実験を行う「空間グループ」、②新しい個室型の特別養護老人ホームを調査する「福祉グループ」、③エコスクールやコミュニティスクールを調査する「学校グループ」の3つのグループに分かれて研究を進めています。

また、近年は研究室出身の方を大学に講師としてお呼びする機会が増えています。学部2年生の設計演習

には、非常勤講師として若林亮氏（4期生、日建設計）に来ていただいております。昨年度の大学院特別講義には山下忠男氏（7期生、梓設計）に来ていただきました。同窓生が設計に奮闘されている姿は、学生に大変良い刺激になっており、渡邊先生も各同窓生のご活躍を大変喜んでおられます。

上記のように、2008年初春には渡邊先生の退職記念事業に関するお知らせを研究室出身の方を中心にお送りしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 細田 智久 (18期生)

平成18年9月1日から平成19年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
■残 金	
平成18年9月1日現在	1,840,843
■収入の部	
全学同窓会からの会費の分配金	430,000
預金利息	1,819
建設工学同窓会名簿購入希望者からの振込金	18,000
小 計	449,819
■支出の部	
建設工学同窓会名簿作成・郵送等費用	164,970
全学同窓会報発送作業等費用	37,000
全学同窓会報郵送用封筒等印刷費	41,500
全学同窓会報郵送費用	141,100
小 計	384,570
■残 金	
平成19年9月1日現在	1,906,092

第七工学系

知識情報工学系より

学内近況報告

知識情報工学系 系長 堀川 順生

卒業生、修了生の皆様、お元気でご活躍のことと思います。知識情報工学系の近況をご紹介します。前年度に引き続き堀川が系長、増山教授が系長補佐です。

教員に関することでは、本年4月から教員の名称が、助教授は准教授へ、助手は助教に変わりました。助教は任期付（5年、再任可）となり、また講義ができるようになりました。教授と講師の名称はそのままです。人事に関しては、桂田助教が留学生センター講師に昇任しました。杉浦准教授が情報メディア基盤センターに2年間の期限付きで配置換えになりました。加藤講師が英国派遣（8ヶ月間）を終了して3月に帰国しました。本年度から教員評価制度が正式に導入されました。

研究に関しては、本年度のグローバルCOEに3系の石田誠教授を拠点リーダーにした「インテリジェントセンシングのフロンティア」が採択されました。全国で10大学、計13件という厳しい競争に勝ち抜いての採択でした。知識情報工学系もこのプロジェクトに加わります。また、「ものづくり技術者育成支援事業」（文部科学省）に本系岡田教授が担当する「次世代ロボット創出プロジェクト」が採択されました。

昨年度受けたJABEE（日本技術者教育認定機構）審査結果は、2年後に再審査という条件付きで認定となりました。ご協力いただいた皆様にこの場をお借りして再度お礼申し上げます。条件の大部分は共通教育と学部教育の連携に関することでした。JABEEには功罪両方の面があります。功の面は、教育制度が明瞭になり、その結果、基礎的知識を備えた人材の育成が保証されることです。罪の面は、教育制度が固定化されることで、複合領域などの進展の早い先端的研究分野を教育に取り入れることが難しくなる点です。学生がこのような分野に触れる機会を無くさないように、先端的分野をカリキュラムに取り入れる方向で、今後もカリキュラム改革を続けていきます。

就職状況は本年度も大変良好です（求人企業数233

社、求人倍率5倍以上）。8月時点での修士の就職内定率は96%です。求人企業も関東、関西の上場企業が多く、また業種も情報、メーカ、機械、化学など多岐に渡っています。今年は、企業の採用担当者から、情報系の人材が不足しているという話を特によく耳にします。メーカ系や機械系の採用担当者からも予定採用枠の6割が情報系の人材であると聞きました。情報系の人材は今後もますます必要になると思われます。情報系人材の不足が言われている中、ソフトウェア関係はインドや中国に任せればよいという意見もありますが、日本の発展には日本人の情報系人材の育成が不可欠です。知識情報工学系はこれからも、情報系人材の育成と研究開発を目指していきます。

最後になりましたが、30周年記念事業へのご協力どうもありがとうございました。同窓生の皆様のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

教職員一覧及び学生現員（平成19年9月現在）

〔情報科学分野〕

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
准教授：河合和久、市川周一、村越一支
助教：相田 慎、酒井浩之、原田耕治

〔機能情報工学分野〕

教授：新田恒雄、堀川順生、岡田美智男
准教授：金澤 靖、杉浦彰彦¹、北崎充晃²
講師：桂田浩一
助教：杉本俊二

〔分子情報工学分野〕

教授：関野秀男、高橋由雅
准教授：栗田典之、後藤仁志
講師：加藤博明
助教：墨 智成、藤島悟志

〔事務関係〕

事務職員：佐野友子、河合奈穂子
技術職員：小西和孝

〔学生現員〕

学部：1年次 12名、2年次 14名、
3年次 51名、4年次 63名
修士：1年次 55名、2年次 58名

¹ 情報メディア基盤センター所属、

² 未来ビークルリサーチセンター所属

「ものづくり技術者育成支援事業」に選定

知識情報工学系 教授 岡田 美智男

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。このたび、文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」に、本学（知識情報工学系）の申請した提案が採択されました。その内容について簡単にご紹介いたします。

昨今、若者の理科離れや熟練技術者の大量退職による2007年問題など、科学技術分野、製造技術分野における優秀な人材の不足が懸念されています。また、大学における技術教育においては、専門分野の高度化・細分化により、学生の個々の専門性と将来の職業との関係が希薄化し、就労意識の低下を招いているといわれています。こうした背景の下、文部科学省の「ものづくり技術者育成支援事業」では、地域や産業界と連携した実験・実習と講義の組み合わせにより、ものづくり過程の全体を見渡し技術の目利きをすることのできるものづくり技術者の育成を目指しており、その革新的教育プログラムの開発・実施を大学等に委託するものです。本学からは「次世代ロボット創出プロジェクト～地域や世代間の協働による創造的・実践的かつ指導的技術者の育成～」(取組担当者：知識情報工学系 岡田美智男)を提案・申請し、採択されました。

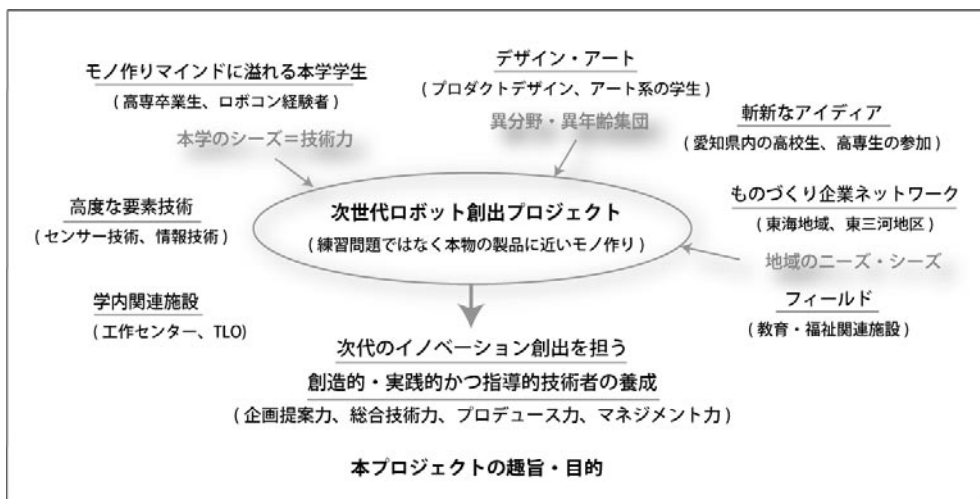
ご存知のように、次世代ロボットは日本の誇るものづくり技術、ユビキタスネットワーク技術、コンテンツ技術などの集大成として実現され、イノベーション政策の要として期待されています。またものづくり教育や創造教育のためのリソースとして考えると、組込み系ソフトウェア技術から機構設計、情報技術、プロダクトデザインに至る広範な技術分野を含み、かつ学生からのアイデアや企

画提案など多様な発想を引き出す余地を含んでいます。そうしたことから、広範な技術分野を俯瞰しつつ、学生のものづくりマインドを引き出すことの可能な優れたリソースといえます。

本取組の「次世代ロボット創出プロジェクト」では、本学学生に加え、プロダクトデザインを専門とする芸術系大学の学生、高専生から大学院生、地域の企業ネットワークの技術者など、多様な専門分野・世代間のコラボレーションにより、ネットワーク型のオープンラボを組織して、次世代ロボットの企画立案、プロトタイプ構築、知的財産の権利化、ビジネスマッチングまでの実践的な活動を行います。

また、このプロジェクト活動を通して、柔軟な発想力や企画提案力を備えたクリエイティブな人材や、高度な専門知識を生かしながらプロジェクトに貢献できる技術スペシャリストの人材、そして広い視野と総合技術力を備え、新たな企画や事業をまとめ上げるプロデュース力やマネジメント能力を備えたプロジェクトリーダー的な人材の育成を図りたいと考えております。

なお、本委託事業は3年間の計画で、いまスタートしたばかりです。卒業生、修了生の皆様にも、ご指導・ご鞭撻を賜ればと考えております。



7 系同窓会収支報告 (H18年度)

■ 収入の部

項目	平成18年度決算
前年度繰越金	4,389,519
会費(各系分配金)	480,000
預金利息	2,141
収入合計	4,871,660

■ 支出の部

項目	平成18年度決算
会報経費	
会報発送費	69,680
会報発送作業費	25,151
原稿執筆御礼	10,000
名簿管理経費	10,000
小計	114,831
次年度繰越金	4,756,829
支出合計	4,871,660

研究室だより

〈機能情報工学分野〉

堀川研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 沼田 亮太

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今回は、堀川研究室の近況についてご報告いたします。

本研究室は現在、堀川順生教授と杉本俊二助教のご指導のもと、学部生2名と修士生7名が日々研究に取り組んでいます。本研究室では、聴覚系の脳機構について生理学的・心理学的に研究し、解明することを目指しています。生理学的研究には5名の学生が携わっており、動物の聴覚皮質の神経細胞から、音に対する活動を光学的計測法によって計測し、解析しています。心理学的研究には4名の学生が携わっており、ヒトの聴覚について、心理物理学実験や脳波計測を行い、解析しています。

研究室の行事としては、毎週の進捗報告とゼミ、新メンバーの歓迎会、卒論発表・修論審査のお疲れ会、研究室旅行があります。進捗報告では、1週間分の実験結果や研究に関する調査等について報告しています。ゼミでは、自身の研究内容に関する英文論文を翻訳し、プレゼンしています。歓迎会とお疲れ会、研究室旅行は、研究室のメンバーで楽しく親睦を深めています。

本年5月には、同志社大学において日本音響学会聴覚研究会が開催され、私も参加しました。このような場で、

初めての発表だったので大変緊張しました。また、他の研究チームの発表も聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。今後も、このような研究会に参加し、自身の研究に活かしていこうと思っています。

最後になりましたが、皆様の今後の更なるご活躍を心からお祈りいたします。そして、豊橋近辺へ来られる際には是非、本研究室にお立ち寄りいただきたく思います。堀川研究室一同、心からお待ちいたしております。



〈情報科学分野〉

磯田研究室の近況

知識情報工学専攻 修士2年 中西 宏

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍なされていることと思います。本稿では、磯田研究室の近況についてご報告いたします。

現在、磯田研究室には教授の磯田先生と助教の相田先生をはじめ、学部生が3名、修士生が2名おります。また、今年7月からベトナムからの留学生が1名加わりました。一時期は10名を超える学生がおり非常に活気がありましたが、最近では修士課程に進まずに就職する

人が多かったため数が減ってきており、研究室内は落ち着いた感じになっております。写真は、現在の磯田研究室メンバーです。

磯田研究室では、オブジェクト指向設計・開発についての研究を行っております。具体的には、各種設計方法論の評価・研究や、UML (Unified Modeling Language), OCL (Object Constraint Language) などの研究を行っております。最近ではそれらに加え、ソフトウェア設計・開発における支援ツールの開発や、

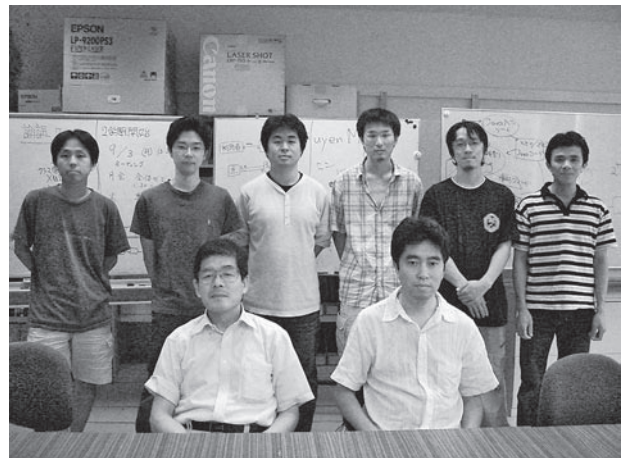
Java EEを用いたWebアプリケーションの設計・開発方法の研究など、新しい研究も行なっております。各自、自分の研究テーマについて積極的に研究を行っております。

現在、磯田研究室では各自の研究経過を報告するゼミを週2回行なっているほか、オブジェクト指向開発に関する英文の本を用いて輪講を週1回行なっております。毎回2人の先生の下、密度の濃い指導をいただいております。

研究室では、4月の歓迎会や12月、3月の発表お疲れ様会のほか、ときどき外食をしたりしてメンバー内の親交を深めています。今のところ、新しくきた留学生が日本語・英語とも十分でないので、会話するのにメンバー一同苦労しています。

豊橋にお寄りいただいた際には研究室にお立ち寄りいただき、助言などをいただけたらと思います。ただ、

最近は自宅で研究を行なう学生が多くなったため、研究室に全員集まっていることが少ないです。なので、お立ち寄り際には事前にご連絡いただけるとありがたいと存じます。



〈分子情報工学分野〉

加藤研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 田中 裕貴



卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。加藤研究室は、2005年度に発足した新しい研究室です。現在、加藤博明講師を筆頭にして、修士3名、学部2名の総勢6名で構成され、日々研究に励んでおります。

当研究室では、特にモチーフと呼ばれる生体機能発現に重要な局所構造特徴に注目して、生体高分子の機能解明のための分子構造処理アルゴリズムの開発とシステム化について研究を進めています。また、旧化学情報学研究室(旧阿部研)で行なわれていた研究テーマも引き続き行なっています。主な研究テーマとしては、(1) 分子構造データのコンピュータでの取り扱いと知識獲得に関する研究、(2) 生体高分子の三次元構造特徴解析システムの開発、(3) 有機化合物の匂いと構造の相関解析、(4) 化学・分子生物学データベース

の構築及びその応用、(5) 分子グラフィックスに関する研究、等があります。

また、定例会として、毎週英語の輪講や、修士・学部合同で学生から話題提供する勉強会や研究室のネットワーク構築に関する勉強会なども行なっております。また、これからは修士学生を中心に、学会発表なども随時行なっていく予定です。また、隣の高橋研究室とは合同で研究報告会を行なったりするなど、他研究室との交流も行なっています。

昨年度は、加藤先生が8月から翌年3月末まで在外研究のため、イギリスのシェフィールド大学へ長期出張されていたので、卒業研究に向けての色々なやり取りは全て電子メールで行なっていました(インターネットがあつて助かりました)。

皆様、ご多忙のこととは存じますが、豊橋近辺に来られる機会がございましたら、当研究室にも是非お立ち寄り下さい。その際に実社会での貴重な体験談等の御助言をいただければ幸いです。また、当研究室の活動状況はweb (<http://www.pit.tutkie.tut.ac.jp/>)にて公開しておりますので、是非ご覧ください。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈りしております。

第八工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告

エコロジー工学系近況報告

エコロジー工学系 系長補佐 木曾 祥秋

卒業生、修了生の皆さまにおかれましては、ご活躍のこととお慶び申し上げます。例年通り、本稿ではエコロジー工学系の最近の動きをまとめてご紹介いたします。

まず教員の異動に関しては、エコロジー工学系創設当時から在職されていた教員2名の転出がありました。成瀬一郎先生は昨年4月に工学教育国際協力センター（ICEED）の教授へ異動となりましたが、引き続きエコロジー工学系協力教員として研究室を持たれていたところ、本年3月をもって名古屋大学に転任されました。また、倉田学児先生も3月をもって京都大学へ准教授として転任されました。5月には、未来環境エコデザインセンター准教授としてエコロジー工学系の運営にたずさわってこられた大門裕之先生がICEEDの准教授に異動されましたが、先生にはエコロジー工学系協力教員として引き続きご尽力を頂いております。また同じく5月には東海林孝幸先生が助手として着任されました。二又裕之先生は、在外研究員として10月から来年3月までの予定で米国へ長期出張されています。

時期は前後しますが、学校教育法が改正された関係で、本年4月より従来の助教授は准教授に、また助手・教務職員は新たな職位である助教と助手に分かれることとなったのに合わせ、エコロジー工学系でも、教授以外の先生方の職名がほぼ全員変更になり

ました。さらに本学では、従来の大講座が廃止され、新たに研究分野という枠が制定されることになり、エコロジー工学系では生命工学・環境創生・生態環境システムの3つの研究分野が定められました。現在のエコロジー工学系教職員の構成については、本同窓会報の囲み記事をご参照ください。

エコロジー工学系としての活動についてですが、本系と建設工学系を中心に5年間続いてきた21世紀COEプログラム「未来社会の生態恒常性工学」が3月で終了し、これまでの研究活動を一度まとめる時期になっていることと入れ替わるように、現代GP「持続社会コーディネーター育成プログラム」が昨年採択されており、平成20年度よりいよいよこのコースの学生を受け入れる準備を進めているところです。また、とよはしTLO（豊橋キャンパスイノベーション）の「中小企業産学連携製造中核人材育成事業」への協力が要請され、企業における環境技術人材育成の一端を担うことになっています。

以上、エコロジー工学系の近況をご紹介しました。開学30周年記念事業として同窓生の皆さまには既にご協力を頂いておりますが、本年度も事業は継続しておりますので、引き続き寄付金等のご協力をお願いしたいと存じます。今後とも、本学およびエコロジー工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。末筆になりましたが、同窓生の皆さまのますますのご発展をお祈りいたします。

転出教員より

技科大 18年

成瀬 一郎

平成元年4月にエネルギー工学系大竹一友研究室の助手として赴任致し、その後、エコロジー工学系および工学教育国際協力研究センターにて、計18年間、御世話に相成りました。ここに、豊橋技術科学大学教職員の皆様ならびに同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。



さて、この18年間を振り返りますと、まず、大竹先生が平成9年9月26日にインドネシア・メダン近郊にて航空機事故により御逝去されたことを挙げなければなりません。今から振り返れば、これが小職の教育・研究活動の中の変曲点であったように感じております。これを期に、小職もインドネシアの高等教育開発に、微力ながら、参画させて頂くことになりました。実は本稿も、平成16年12月に生じた大地震の震源地であるインドネシア・バンダアチェにてメールを受け、執筆致しているところでございます。

貴学では、エネルギー・環境に関する国際情勢が激しく変遷する中、一貫して、石炭を中心とした固体燃料の環境調和型高効率利用技術の要素研究に取り組みさせて頂きました。言うなれば石炭利用技術と地球環境という、相反する課題を教育・研究させて頂きました。当研究室は、“危険・きつい・汚い”という、いわゆる“3K”研究室と噂され、学生からは研究室配属時に敬遠されていたような感があったのですが、大竹先生の適切な御指導のもと、また、同窓生諸氏の汗水を惜しまぬ努力によって、大変有用な研究成果を得、また、小職にとっても貴重な経験を積むことができました。

近年、エネルギー資源の逼迫感が再燃し、石炭等の固体系炭素資源が再度注目され始めました。その一方で、京都議定書の約束期間を間近に控え、CO₂を代表とする温室効果ガスの削減が待った無しの状況にあります。本年4月1日より名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻機械科学分野に、新たな研究グループである高温エネルギー変換工学研究グループを立ち上げることに相成りました。引き続き、当該分野の教育・研究活動を磨き、国内外のエネルギー・環境課題に貢献すべく刻苦勉勵する所存でございますので、今後とも関係各位の変わらぬ御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

転出教員より

技科大で過ごした11年間

倉田 学児

平成8年に豊橋技術科学大学エコロジー工学系に採用していただき11年間を過ごしてきました。本年4月より京都大学大学院地球環境学堂（工学研究科都市環境工学専攻を兼任）で准教授として勤務しております。この11年間、恵まれた環境の中で、多くの皆様に支えられて自由に研究活動をすることができ、また多くの学生諸君と共に新しい事を学ぶ事ができましたことを、心より感謝いたします。



現在、私が所属している研究室は、環境統合評価モデル論分野という名称で、国立環境研究所などと共同で地球温暖化防止のための温室効果ガスの中長期的な削減シナリオを、社会科学的な手法を用いて研究しています。私自身は、豊橋で学ばせて頂いた東アジア地域の大气汚染物質の長距離輸送シミュレーションの研究を発展させて、将来シナリオ下での東アジア地域の大气汚染物質濃度の将来予測と、その健康影響や生態系影響などを評価する事を目標として研究を立ち上げております。深刻化する途上国の都市大气汚染の緩和の観点からポスト京都議定書の枠組みへ、途上国を戦略的に誘導できないか、といった事も視野に入れて研究を進めています。

現在のところ、2050年までに世界の温室効果ガスの排出量を少なくとも現状の50%以上減らさないと、人類が許容しがたい悪影響が生じるだろうという事になっていますが、このためには、革新的な技術の開発・普及というだけでなく、相当なライフスタイルの変革も要求されることになると考えられます。一人一人が今すぐにでも始められる対策も沢山あるわけですが、実際に行動に移すとなると、やっぱり腰は重いですね。自分自身の事にしても、毎年の定期健康診断で肥満要注意という警告をもらって、これ以上体重を増やしてはいけないと分かっているはずの身体に、この原稿を書きながらも、ビールとアイスクリームを供給することを止められないわけですから説得力はないですよ。本当に難しい問題です。今後とも皆様のお知恵を拝借させて頂きながら、微力ながらも我々の子供や孫たちの世代に、取り返しの付かないツケを残さないための方策を考えていきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓生の皆様には、今後のより一層のご活躍を祈念いたします。

新任教員より

東海林 孝幸

平成19年5月1日付けでエコロジー工学系助手として採用になりました。博士課程を技科大で過ごしましたので再び豊橋の地を踏むことになりました。3年ぶりですが、駅前のデパートが無くなったり、逆に新しい施設ができていたり、少しずつ街が変化していることが感じられます。博士課程在学中は複雑な構造を持つ道路周りの大気汚染物質の動態とその除去技術の評価について、数値モデルをもちいた研究を行ってきました。その後、ポスドクとして茨城県つくば市にあります産業技術総合研究所、建築研究所にて気象モデル、都市モデルを用いたヒートアイランド現象の解析と対策の評価を中心に研究業務に従事しておりました。



ご存知のように大都市ではヒートアイランド現象に

より高温化し、夜間においても気温が下がらず、電力エネルギーの消費増大を招いております。高温化対策として壁面、屋上緑化、高反射塗料の使用、風の道の確保などについて、その効果を評価するために数々の実測、風洞実験、数値シミュレーションが行われ成果が蓄積されつつあります。さらにこのような現象は日本のみならず、現在発展著しいアジア域でも都市の熱環境問題として顕在化してくるものと考えられています。そのようなことも視野に入れ、研究ではアジア域の大都市における熱環境の評価、集中豪雨などの気象災害に結びつく現象の解明を中心に進めてゆきたいと思っています。

今まで企業、研究所での勤務が大半を占めておりましたので大学での勤務はまた一味違ったものでありますが、これからの研究・教育活動を通じて微力ながらも大学および社会に貢献したいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

エコロジー工学系関連職員の現況（平成19年9月）

〔生命工学〕

教授：平石 明、菊池 洋、浴 俊彦

准教授：辻 秀人、田中 照通

助教：二又 裕之

助手：梅影 創

〔環境創生〕

教授：水野 彰、藤江 幸一、田中 三郎

准教授：後藤 尚弘、西 和久、高島 和則、大門 裕之
(ICEED)

助教：廿日出 好

助手：安田 八郎

〔生態環境システム〕

教授：北田 敏廣、木曾 祥秋

准教授：金 熙濬

助教：小口 達夫

助手：東海林 孝幸、南 亘

〔技術専門職員〕坂井 悦子

〔事務職員〕小林 美和子、坂上 千恵子（非常勤）

〔関連役職員〕松為 宏幸（副学長）

〔学生現員〕（平成19年4月1日現在）

学部：1年次 5名、2年次 15名

3年次 53名、4年次 57名

修士：1年次 31名、2年次 46名

8系同窓会 会計収支報告

（平成18年4月～平成19年3月分）

項目	金額（円）
〈収入の部〉	
前年度繰越金	4,367,575
会費（各系分配金）	380,000
預金利息	2,119
収入合計	4,749,694
〈支出の部〉	
会報発送費	82,824
次年度繰越金	4,666,870
支出合計	4,749,694

研究室だより

〈生命工学研究分野〉

浴研究室の近況

エコロジー工学系 修士2年 倉内 優

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれのフィールドでご活躍のことと存じます。私たちは、浴先生共々元気に過ごしています。それでは、この場をお借りして浴研の近況を報告させていただきます。

今年度は、浴 俊彦教授の下、修士課程4名、学部3名の計7名で活動しています。

現在、我々は、大きく3つのテーマを持ち研究を行っています。

1つ目のテーマは『ゲノム安定性に関わる新規ヘリカーゼファミリーの機能研究』です。近年、先輩たちがD2005.5と呼んでいた研究を行ってきた遺伝子がdrh-3と命名されたことは記憶に新しく、この分野は2006年のノーベル賞を受賞したMello等と非常に近い研究を行っています。現在とてもホットな研究分野で、国際競争も激しく、これについては4名の学生が研究を行っています。

2つ目のテーマは『遺伝子組み換え酵母によるバイオセンサ技術の開発研究』です。このテーマは2名で研究を行っています。今年度は、本研究室で開発した「間接レポーターシステム」をより容易に評価できるように改良を加えています。

最後のテーマは『寿命を支配する遺伝子と環境因子にかかわる研究』です。DNA修復機能の遺伝的欠損、および有害物質暴露などの環境因子が線虫の個

体寿命に与える影響評の研究をしています。現在は1名で研究をしています。

研究室の雰囲気は昔と変わらずアットホームで、とても居心地がよく感じます。また、各自が計画を立て、それぞれ自立して研究に励んでいます。

研究室内の大きな変化としては、部屋の模様替えとホームページのリニューアルの2点が挙げられます。居室の場所はG-501と変わりませんが、机と本棚の配置などを大きく変えた結果、以前よりも使えるスペースが広くなりました。また室内全体に日が射すようになり、研究室全体の雰囲気も明るくなったような気が致します。

ホームページでは、デザインも一新され研究室の紹介やメンバーについての情報も公開していますので、お時間のあるときに是非ともご覧くださいと幸いです。

卒業生の皆様、豊橋の近くにこられたときには、ぜひ研究室にお立ち寄りください。研究室一同、皆様のご来校を心よりお待ちしております。

最後になりましたが、卒業生、修了生の皆様のご来校のますますのご活躍を心からお祈りしております。



第九学系

人文・社会工学系より

学内近況報告

渋澤 博幸

人文・社会工学系のメンバーは、平成19年度は、山口誠教授を系長として、教育と研究の活動を元気に続けています。田村先生が准教授に昇進されました。

〈教職員一覧〉

[人文・社会工学系]

教授：山口 誠(系長:併), 山本 淳, 浜島昭二, 藤原孝男, 宮田 譲

准教授：相邦邦宏, 尾碕一志, 渋澤博幸, 中森康之, 西村政人, 平松登志樹

外国人教師：David Levin

[語学センター]

教授：伊藤光彦(センター長), 小杉隆芳, 山本 淳

准教授：田村真奈美

助手：鈴木聖子

[留学生センター]

教授：浜島昭二(センター長:併), 氏平 明

准教授：加藤三保子, 林 孝彦, 村松由起子, 吉村弓子

[体育・保健センター]

教授：安田好文(センター長)

准教授：佐久間邦弘

[未来技術流動研究センター]

教授：岩本容岳

助教：白川正知

[工学教育国際協力研究センター]

准教授：黒田清彦

准教授：池田則宏

9系教官の研究論文・研究報告・研究資料の一端は、人文・社会工学系紀要『雲雀野』で紹介しています。最新号の目次を掲げておきます。本学図書館、各系事務室他、全国大学・高専図書館、国立国会図書館などに収めています。

『雲雀野』第29号 目次

- 村松由起子
「中国語「意味上の受身文」と日本語の受身文」
- 田村真奈美
「女性作家と野心—エリザベス・ギヤスケルの『シャーロット・ブロンテの生涯』再読」
- 山口誠, 渋澤博幸
「地域観光の経済効果計測に関する研究」
- 中森康之 「支考が語る支考—芭蕉入門前」
- 山本淳 「歎異抄ノート」
- 伊藤光彦, 尾碕一志, 加藤三保子, 田村真奈美, 西村政人, デイヴィット・レヴィン
「豊橋技術科学大学における学生と教員の英語学習に対する意識」

計画・経営科学分野の近況

修士課程 中澤 光介

修了生の皆様、いかにお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。

現在の計画・経営科学分野は、山口誠教授、宮田譲教授、藤原孝男教授、平松登志樹准教授、渋澤博幸准教授をはじめ、修士課程1名、中国からの研究生2名、学部4年生1名で構成されています。

計画・経営科学分野の研究分野は、経済学・経営学に関するもので、その中心になるのは政策論・計画論・経営管理論です。研究内容としては、社会経済や環境の構造分析・将来予測、政策評価手法の開発及び政策や計画支援システムの策定を行っております。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。
<http://pm.hse.tut.ac.jp>

学生の研究テーマとしては、東三河および遠州地域で計画されている高規格道路整備の経済波及効果の計測、東三河地域の社会経済と水需給構造を分析するための地域計量経済モデルの構築や技術経営などに取り組んでいます。

修了生の皆様、豊橋においでの際はぜひ研究室にお立ち寄りの上、お仕事の話などをお聞かせください。最後になりましたが、先輩方のこれからのますますのご活躍をお祈りしております。

第56回東海地区国立大学体育大会 結果一覧 得点表

(男子)

競技種目	大学名	名工大		豊技大		愛教大		浜医大		静岡大		三重大		名大		岐大		備考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	6	3	7	2	1	10	8	1	2	8	3	6	4	5	5	4	
2	水泳	6	3	8	1	5	4	7	2	2	8	4	5	1	10	3	6	
3	硬式野球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	雨天オープン
4	準硬式野球	3	5.5	5	2.5	1	10	5	2.5	3	5.5	5	2.5	2	8	5	2.5	
5	硬式テニス	7	2	5	4	4	5	3	6	2	8	1	10	6	3	8	1	
6	ソフトテニス	5	2			2	5	6	1	1	6	3	4			4	3	
7	バスケットボール	6	3	5	4	7	2	8	1	1	10	3	6	4	5	2	8	
8	バレーボール	8	1	6	3	5	4	7	2	2	8	4	5	3	6	1	10	
9	卓球	6	2	7	1	5	3			2	6	4	4	3	5	1	8	
10	バドミントン	4	5	8	1	3	6	6	3	2	8	7	2	5	4	1	10	
11	サッカー	7	2	8	1	3	6	4	5	2	8	1	10	5	4	6	3	
12	ハンドボール	3	5			1	8	7	1	4	4	6	2	2	6	5	3	
13	柔道	5	2.5		0	5	2.5			4	4	2	6	1	8	3	5	
14	剣道	6	3	7	2	3	6	8	1	5	4	2	8	4	5	1	10	
15	空手道	5	4	8	1	7	2	1	10	3	6	6	3	2	8	4	5	
16	弓道	1	8			2	6	4	4	5	2	3	5	5	2	5	2	
17	体操	5	2			3	4			6	1	4	3	2	5	1	6	
18	馬術	4	2			4	2			1	6	4	2	3	4	2	5	
19	アーチェリー					4	2			2	4	1	5	3	3	5	1	
20	少林寺拳法			6	1	4	3			3	4	1	6	5	2	2	5	
合計得点			55		23.5		90.5		39.5		110.5		94.5		93		97.5	
男子順位										1		3					2	

(女子)

競技種目	大学名	名工大		豊技大		愛教大		浜医大		静岡大		三重大		名大		岐大		備考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	6	1.5			1	8	6	1.5	2	6	5	3	4	4	3	5	
2	水泳	7	1			2	6	4	4	6	2	3	5	5	3	1	8	
5	硬式テニス	4	4			5	3	7	1	2	6	6	2	1	8	3	5	
6	ソフトテニス					2	4		0	3	3	1	5			4	2	
7	バスケットボール					2	5	6	1	1	6	3	4	4	3	5	2	
8	バレーボール	5	2					6	1	1	6	4	3	3	4	2	5	
9	卓球					3	3			2	4	1	5	5	1	4	2	
10	バドミントン	7	1			1	8	5	3	6	2	3	5	2	6	4	4	
12	ハンドボール					1	/					3	/			2	/	オープン
13	柔道						/				/		/		/		/	オープン
14	剣道					2	4			3	3	5	1	4	2	1	5	
15	空手道							1	4	3	2			2	3	4	1	
16	弓道	2	6			5	3	6	2	3	5	1	8	4	4	7	1	
17	体操					3	/							2	/	1	/	オープン
19	アーチェリー					2	3					1	4	3	2	4	1	
合計得点			15.5		0		47		17.5		45		45		40		41	
女子順位			7				1		6		2		2		5		4	

グローバルCOEプログラム

「インテリジェントセンシングのフロンティア」

電子・電子工学系 石田 誠



図1

グローバルCOEプログラムは、文部科学省において平成14年度から開始された「21世紀COEプログラム」のあと、その基本的な考え方を継承し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業です。

COE (Centers of Excellence) とは、「世界最高水準の研究教育拠点」ということです。前の21世紀COEプログラムで、豊橋技術科学大学の電子情報専攻は「インテリジェントヒューマンセンシング」(詳細は<http://tut.coque.jp/coe.pdf>を参照してください。)というテーマで本年の3月までの5年間推進してきました。(全国の電子情報分野で20拠点。平成14年から16年に採用された全拠点数は、11分野で274件。本学のもう1件は、「未来社会の生態恒常性工学」です。)

今回のグローバルCOEの採択数は、21世紀COEの半分になるということで、1年前ぐらいからいろいろな噂が流れていましたが、実際は12月の末に公募があり、2月中旬に申請書提出、3月中旬に1次書類選考結果発表、その後外国人レフリー用の申請書提出、そして5月17日に東京で最終ヒアリングが行われました。審査委員22名の前で、西永学長の全体説明の後、本学の「インテリジェントセンシングのフロンティア」を説明し、その後いろいろな質問攻めに会いましたが、回答できたと思います。一緒にヒアリングに出席した澤田先生、中内先生、そして事務の小玉係長を含め昼食を取りましたが、一杯のビールのおいしかったことはいまでも鮮明に覚えています。結果は別として大役を果たした安堵感からです。最終的に、結果を知ったのは、6月14日のメールで、丁度フランスのリヨンで開かれていたセンサ関係分野の最も大きな国際会議(1600名参加者)にアジアのチェアとして参加していたとき

です(図1)。正式発表は15日でしたが、学長とリーダーには前もって連絡が入りました。帰国後、記者会見を18日に学長と一緒に行いましたが、電子情報分野は、13件(21世紀COEの半分の10拠点と新規3件を採用)と大変厳しいもので、東海地区は本学だけでした。小さい大学ながら、申請内容を何度何度も考え、議論し、発表用PPTを練ったワーキングのメンバー(9名 図2)のチームワークの勝利といえますが、今後の運営と推進のためには専攻の教員、学生、そして事務側の全面的な協力と支援をお願いするしだいです。

テーマの「インテリジェントセンシングのフロンティア」ですが、これは各種センサなどを搭載したLSIのデザインからチップまで製造できる一連の設備を備えた世界的にもユニークなLSI工場を有する本学ならではの特徴を生かした教育研究拠点をめざしています。将来の情報化社会を支えるセンシング分野を国際的にリードするフロンティアとして、従来のセンサ技術の延長でなく、生体情報、医療、環境、農業などの分野の先端的「知」を取り入れたセンシングを開拓するとともに国際性を備え、リーダー的即戦力となる「センシングアーキテクト」(高いレベルの仕様を決め、全体が見える研究者)の育成をおこなう世界的センシング研究活動拠点をめざしています(図3)。そのために、博士課程学生へ20万円/月の支援(貸与)など、人材育成に重点が置かれています。若い意欲ある多くの学生の皆さんが参加されることを期待しています。



図2

<http://www.tut.ac.jp/g-COE2.htm>,
<http://www.gcoe.tut.ac.jp/work/index.html>,
http://chubu.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyo070619_3.htm?from=goo
<http://www.chunichi.co.jp/article/aichi/20070619/CK2007061902025247.html#print>

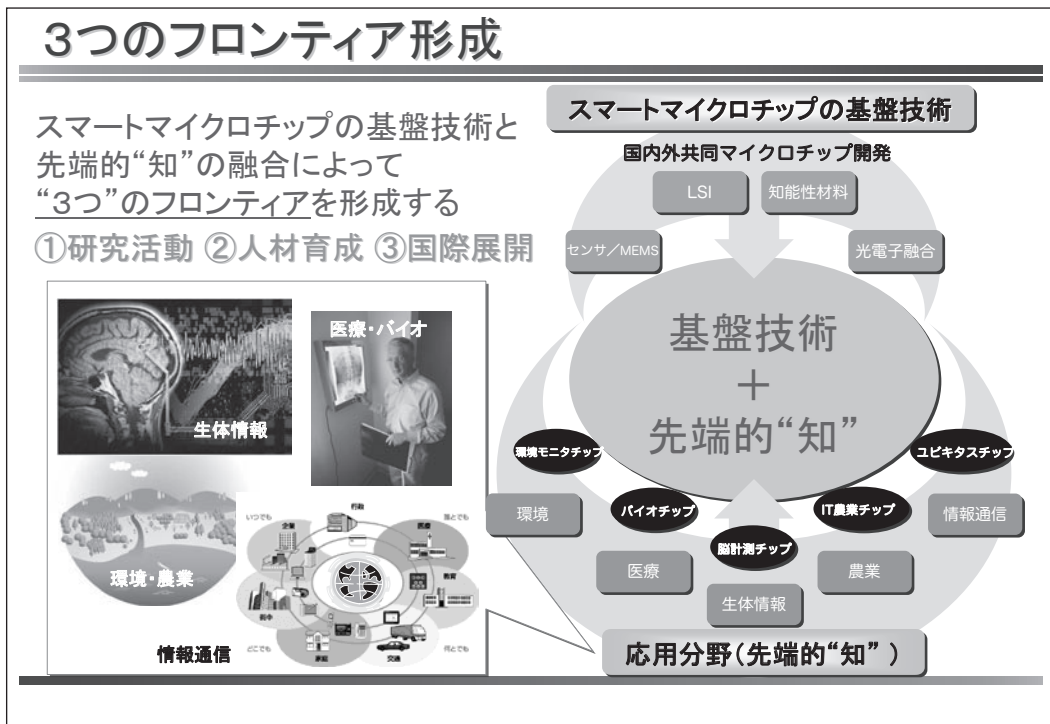


図3

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

同窓会会長 (1系1期) 今泉 敏 幸

「袋小路」となっていた高専生の進学への道を切り開く大学として豊橋技術科学大学は、1976年に設立されました。豊橋技術科学大学の設立に向けて努力された方々にとっては、2006年は記念すべき30周年の年であったと思います。一方、我々卒業生にとっては、一期生が入学した1978年から数えて30年目の2008年が30周年記念の年とも言えます。いずれにしてもあれからもう30年たったのかという思いであります。しかし、歴史の古い大学と比較するとまだ30年にしかすぎません。微力ではありますが、私はこれからの豊橋技術科学大学の発展に貢献したいと考え、豊橋技術科学大学全学同窓会の会長をお引き受けいたしました。

30年前には高専卒業生を受け入れる大学は、豊橋と長岡の両技術科学大学を除けば、殆どありませんでした。それが現在では、かなりの数の国立大学が高専卒業生を受け入れています。高専生にとっては選択肢が広がり喜ばしいことですが、豊橋技術科学大学が高専生にとって第一希望であってほしいと願うのは私だけではないでしょう。高専生だけでなく、高校生や大学院への進学を希望している大学生、さらには日本への留学を希望している海外の学生にとっても魅力ある大学に発展してほしいと願っています。

大学間の競争的環境をつくろうとする国の方針の基に、豊橋技術科学大学は2004年に国立大学法人豊橋技術科学大学として新たなスタートを切りました。

文部科学省の「世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援事業」や「ものづくり技術者育成支援事業」における採択、地域貢献度での高評価など豊橋技術科学大学の最近の活躍は目覚ましいものがあり、卒業生として大変うれしく思っています。30周年を契機に、さらに飛躍されることを期待しています。

同窓会としましても、豊橋技術科学大学の発展にできる限り協力して行きたいと思っています。会員の皆様方の物心両面のご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後に皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念致します。

追記

別記のとおり30周年記念募金の同窓会関係(同窓会+同窓生)の寄付金総額はおよそ600万円になりました。本当にありがとうございました。この寄付金はグラウンドの照明設備の設置に使わせて頂く計画ですが、少し資金が不足しております。申し訳ありませんが、今一度募金を致したくよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

大学創立 30 周年記念事業への募金協力をお願い

ご存知の通り、本学は平成18年10月に大学創立30周年の節目を迎えました。昨年度の記念式典の開催、30周年記念誌の発行等を初めとする各種記念事業の実施が進められております。これに伴い、同窓生の皆様には、創立30周年記念事業への募金へのご協力を昨年度よりお願いさせていただいております。お蔭様で、平成19年9月21日現在におきまして326名の同窓生の方々（本学出身教員は除く）より、総額6,085,020円（同窓会からの寄付金1,000,000円を含む）の募金をいただきました。お忙しい中、募金にご協力いただきました皆様には、紙面を借りて厚くお礼申し上げます（募金者リストは下記をご参照下さい）。

さて、皆様よりいただきました募金の使途ですが、本学の運動部で活動している多くの学生から強い要望のありましたグラウンドの照明設備（2基）の設置費用に充当させていただく予定です。付属設備を除く照明本体の費用として700万円程度必要であり、現時点の募金額では100万円程度不足している状況です。大変恐縮ではございますが、同窓生の皆様には更なる募金へのご協力を改めてお願いさせていただきたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

各系の同窓生募金者リスト^(注)

(平成19年9月21日現在。順不同・敬称略。本学出身教員は除く。)

1系：

浅川 智幸, 天野 真幸, 五十嵐 睦典, 池崎 勇, 石井 力, 石橋 仁也, 稲垣 照美, 今泉 敏幸,
今田 耕次, 岩崎 隆夫, 呉 志強, 江崎 昇二, 尾家 正洋, 大河内 一夫, 大藏 善博, 大庭 勝久,
岡崎 泰英, 小山田 匡宏, 開原 基徳, 蒲生 竜己, 川上 佳世子, 川端 真寿雄, 木村 一広, 日下 靖英,
栗原 喜一郎, 小坂 秀成, 小竹 譲, 小林 洋一, 齋藤 隆啓, 堺堀 英男, 佐々木 宏一, 佐々木 俊延,
末長 徹男, 鈴木 祥浩, 平 康一, 高田 恭輔, 竹内 剛, 田辺 司郎, 田村 裕志, 辻 博文,
中尾 洋一, 中根 正義, 夏目 知尚, 新美 増信, 西尾 茂紀, 野田 玲治, 姫野 英俊, 平光 宏志,
深田 猶人, 福田 稔, 藤川 武敏, 保永 和男, 松元 和一, 水野 孝義, 三角 利之, 三橋 章男,
宮内 義明, 元廣 祐治, 森田 康之, 山口 正太郎, 山下 健治 (計61名)

2系：

阿仁屋 雄一, 井川 秀樹, 伊藤 樹一, 海野 達哉, 小澤 靖, 柏田 浩貴, 河邊 真人, 勘場 春樹,
久能 隆志, 黒沢 実, 桑原 竜司, 小阿瀬 丈典, 小泉 智道, 小屋松 博志, 今野 勝, 島崎 昌彦,
鈴木 省市, 瀧家 透, 竹村 進一, 田中 秀, 谷口 潤, 辻元 秀和, 筒井 隆, 富本 登, 中神 英治,
中川 真, 鳴川 宜男, 新実 真, 西野 達也, 二宮 隆二, 延永 浩一, 馬場 逸雄, 林 邦彦, 林 秀人,
藤谷 息吹, 宮下 勉, 宗利 秀和, 室岡 武, 森 邦彦, 山田 伸弥, 山田 文洋, 山本 和広,
好長 憲二, 吉村 英俊, 吉本 真一, 渡邊 里江 (計46名)

3系：

秋浜 一弘, 秋山 正弘, 石原 誠治, 磯田 卓, 井田 裕一, 伊藤 良典, 射場 達也, 大川 公史,
大橋 賢一, 大橋 治彦, 奥野 利昭, 小野田 義久, 片岡 良一, 金子 和史, 菅野 好輝, 菊池 宏,
岸本 恭徳, 北本 都美, 木下 嘉隆, 京極 昌之, 郭 其新, 雲崎 清美, 倉橋 龍次,
小林 (旧姓:小濱) 美咲, 今藤 元寿, 櫻野 勝之, 沢田 勇一, 下野 幸助, 関谷 克郎, 妹尾 智之,
高尾 慶二, 高橋 弘一, 丹田 喜雄, 塚本 武彦, 徳丸 亀鶴, 中川 重康, 沼田 健二, 橋本 佳明,
馬場先 洋次, 平野 哲也, 廣島 康一, 深澤 秀貴, 堀田 収志, 前多 正, 松井 正好, 松田 祐二,
宮本 徹, 望月 和雄, 森山 繁樹, 山口 利幸, 由比藤 光宏, 横井川 英治, 吉田 孝志, 吉久 正明,
寄林 智, 和戸 弘幸, 西澤 一 (計57名)

4系：

池野 英利, 石井 公彦, 井戸 文則, 伊藤 資泰, 猪子 剛, 宇井 隆晴, 梅原 啓二郎, 大橋 成章,
小川 誠治, 奥田 隆史, 各務 学, 金山 省一, 加納 克則, 國友 伸, 小西 たつ美, 小林 聡,
古部 好計, 斎藤 剛史, 佐久間 健, 猿山 秀一, 志水 文彦, 鈴木 秀智, 高木 栄児, 趙 強福,
辻村 昌治, 中 順一, 仲野 巧, 中野 能行, 中村 雄一, 野口 幸雄, 野崎 広志, 堀江 幸生,
本田 晋也, 本多 英基, 前中 一介, 栢本 吉弘, 松原 勇介, 安尾 浩誠, 安本 太一, 山本 正治,
山本 幹雄, 吉田 勝, 渡邊 誠也, 廣瀬 亘, 工藤 憲昌 (計45名)

5系：

浅野 暢一, 渥美 太郎, 稲垣 純, 伊吹 努, 今村 彰仁, 岩下 哲雄, 牛嶋 裕次, 浦島 和浩,
尾崎 晋康, 河田 英徳, 喜田 徹, 後藤 泰男, 小林 淳哉, 佐藤 博明, 佐藤 龍栄,
清水 (旧姓:佐原) 智子, 杉森 大助, 鈴木 誠, 高橋 尚久, 田代 義和, 仲村 (旧姓:川邊) 淳子,
仲村 圭史, 早坂 浩史, 原藤 寛, 古橋 洋直, 松本 昭, 水野 路子, 村山 和隆, 山本 裕之,
山本 美和子, 吉田 浩二, 綿谷 健一, 渡邊 (旧姓:澤田) 恵枝, 渡部 拓也 (計34名)

6系：

足立 有史, 安藤 智明, 飯吉 勝巳, 池田 和治, 石井 克明, 石川 浩一郎, 石田 浩司, 石鎚 裕司,
稲田 祐二, 大塚 正宏, 大屋 誠, 小野 全子, 笠井 一次, 片岡 昌裕, 加藤 清也, 鎌田 智仁,
菅野 良一, 轡 勝, 神山 光紀, 沢田 純一, 澤村 喜久夫, 柴田 良一, 鈴木 (旧姓:渥美) 文美子,
砂本 文彦, 田口 孝, 辻子 裕二, 戸田 敏行, 長田 幸則, 長屋 学, 仁保 裕, 林 聖二, 飯藤 將之,
平野 剛, 太尾 斉, 正田 要一, 溝口 久, 三好 尚文, 村上 利一, 本村 修, 森 一彦, 柳田 暁,
山内 祥郎, 山口 重行, 吉川 健二, 吉田 勝利, 吉野 達矢, 吉福 司, 吉村 厚哉, 和田 真治,
渡邊 恒博, 渡邊 敏晴 (計51名)

7系：

飯田 晋一, 池本 健介, 要田 計治, 川上 真澄, 小坂 隆史, 後藤 治英, 谷井 久悟, 牧野 崇弘,
丸山 裕, 宮田 敬三, 山内 伸, 山田 辰也, 横手 啓紀, 六本木 一人, 渡辺 旬, 渡辺 祐樹
(計16名)

8系：

石川 康登, 稲石 健一, 呉 戦平, 小杉 明史, 齊藤 桂太, 佐久間 元成, 鈴木 政典, 田畑 智博,
中野 勝行, 朴 珉壽, 平川 拓洋, 藤池 まどか, 保坂 勉, 山田 安昭, 山中 陽介, 吉田 雅弘
(計16名)

(注) 募金者の所属系は、名簿登録情報を管理している系で記載しております。ご了承下さい。

・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成18年度～平成19年度） ・・・・・・・・

1. 会報の発行

同窓会報第24号を平成18年12月に発行・発送しました。印刷部数は9,500部、発行部数は9,000部、残りは会報担当、事務局および各系役員にて保管用ならびに予備としました。平成19年度の印刷部数は10,000部、発行部数は約9,500部を予定しています。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成19年3月23日に豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会との共済で卒業記念パーティーを開催しました。当日は後藤前同窓会会長が列席し、卒業・修了生へ祝辞を送りました。平成19年度（平成20年3月21日）も例年通り行う予定です。

3. 学生活動への援助

本学学生課との共同で学生活動（クラブ活動援助）を行いました。詳細は本文をご覧ください。また本学30周年記念事業に一環として、技科大祭・ステージイベント（アカペラコーラス部コンサート）への援助を行いました。

4. 役員会の開催

平成19年4月21日に、大学C棟402会議室にて役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の活動予定、30周年記念事業への対応、大学との名簿共同管理などに関して話し合いました。なお、役員会の議事録はホームページ上（<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>）にて参照可能です。

5. 西永学長との懇談

平成19年3月30日に、西永学長（本会名誉顧問）と本会の後藤前会長、今泉会長、佐藤副会長、感本副会長、事務局担当者との懇談を行い、大学の現状と将来展望、大学30周年記念事業などについて意見交換を行いました。

平成19年度同窓会役員（平成19年8月現在）

会 長：今泉 敏幸（中央発條棟）

副 会 長：感本 広文（豊橋技科大機械システム工学系）、佐藤 裕久（豊橋技科大物質工学系）

事 務 局：稲田 亮史（豊橋技科大電気・電子工学系）

機械システム工学系（1系 総会・役員会担当） 関下信正、山本高久

生産システム工学系（2系 HP, ML担当） 三好孝典、戸高義一、今村 孝、安部洋平、山田基宏、野田善之

電気・電子工学系（3系 事務局担当） 稲田亮史、村上義信、河野剛士、内海敦志、桶真一郎

情報工学系（4系 名簿担当） 向井智彦、山本一公、野口健太郎、福田浩士、武田善行

物質工学系（5系 会計担当） 大北博宣、武藤浩之、齊戸美弘

建設工学系（6系 援助活動担当） 谷 武、細田智久、中澤祥二

知識情報工学系（7系 会報担当） 加藤博明、藤島悟志、酒井浩之、山田 実

エコロジー工学系（8系 会報担当） 南 亘、二又裕之、東海林孝幸

名 誉 顧 問 豊橋技術科学大学学長 西永 頌

*各系役員へのメールは、admin-#@tut-ob.org #に系番号を入れてください（1系ならadmin-1@tut-ob.org）

会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

1系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791348
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

2系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 773671
加入者名 豊友会

3系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

4系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

5系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

6系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

7系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

8系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局(TEL:0532-47-0111)へご一報下さるようお願い申し上げます。また、ホームページ上(<http://www.tut-ob.org/address.htm>)でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示は削除をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

第1章 総則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。

第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員名簿の発行
- (2) 会報の発行
- (3) 総会の開催
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
- (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
- (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
- (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者

2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名（庶務担当）
- (4) 理事 原則として各系2名
- (5) 顧問 若干名

第7条 本会の役員を選出は、次の各号に定めるところにより行う。

- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
- (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
- (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
- (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。

4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。

第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。

第14条 理事会は次の事項を審議する。

- (1) 本会の事業の運営に関する事項
- (2) 事業報告及び決算報告
- (3) 事業計画案及び予算案
- (4) 賛助会員の推薦に関する事項
- (5) その他、本会の運営に関する議案

第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。

2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。

3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。

4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。

- (1) 会則の制定・改廃
- (2) 事業計画及び収支予算案
- (3) 事業報告及び収支決算案
- (4) その他、本会の運営に関し重要な事項

第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が努める。

第8章 会計

第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。

第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。

- (1) 入会金 5,000円
- (2) 終身会費 10,000円

2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。

第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。

第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。

第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。

2 平成4年度及び5年度在学生会は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

同窓会平成 18 年度収支報告および平成 19 年度予算案

項 目	平成 18 年度予算案	平成 18 年度決算	平成 19 年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	11,680,316	11,680,316	11,040,058
入会金	2,000,000	1,875,000	2,000,000
会費	4,000,000	3,750,000	4,000,000
同窓会報広告掲載料	—	80,000	80,000
預金利息	800	4,519	5,000
小計	6,000,800	5,709,519	6,085,000
収入合計	17,681,116	17,389,835	17,125,058
■支出の部			
会報経費	750,000	788,920	825,000
役員会経費	100,000	48,000	100,000
庶務経費	50,000	50,874	50,000
学生活動援助金	300,000	400,000	500,000
卒業記念パーティ援助金	250,000	255,420	250,000
Web 関連経費	53,130	53,130	53,130
各系への会費配分金	4,000,000	3,750,000	4,000,000
同窓会懇親会	250,000	—	—
30周年事業協力金	1,000,000	1,003,433	100,000
小計	6,753,130	6,349,777	5,878,130
次年度繰越金	10,927,986	11,040,058	10,246,928
支出合計	17,681,116	17,389,835	17,025,058

学生活動への援助報告

同窓会では現在、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、例年、同窓会単独で実施してきた学生活動援助を、昨年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で実施しております。昨年度の援助総額は200万円でしたが、今年度は275万円に増額し、同窓会の分担も30万円から50万円に引き上げました。これに伴い、援助団体数も昨年度の20団体から27団体に増加しました。同窓会では、会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的に援助していきたいと考えております。

(援助活動担当者一同)

おちゃのかい

電気・電子工学課程 3年 山崎 敦史

この度は、おちゃのかいに同窓会よりクラブ援助金を頂き、誠に有難うございます。おちゃのかい一同、心よりお礼申し上げます。

我々おちゃのかいは、毎年9月に「ふつうの茶会」というお茶会を開いております。今回の援助金は、そのお茶会で使うお道具の購入に使わせて頂きました。今年のお茶会では広報活動に力を入れ、新聞社の広告やラジオ放送などで、ふつうの茶会を紹介して頂きました。そのため広く一般の方も、今年のお茶会にお越しくださることと思います。茶道の経験がない方も、ふつうの茶会にお越し頂き、少しでも茶道に興味を持っていただけると幸いです。

今年は我々の練習の場であった和室が、改修工事に伴い一時使用ができなくなっております。そのため現在は仮のお稽古場で、ふつうの茶会を目標にお稽古を行っています。長い年月使用してきた和室がなくなることは、大変寂しく思いますが、新しい和室では部員一同心機一転し、ますますお稽古に励んでいこうと思います。今後とも我々おちゃのかいの活躍にご期待ください。

が、今では小松原街道および東三河環状線沿いの清掃も行っています。休日にも関わらず毎回10～20人の部員が参加してくれています。

活動を開始したばかりですべてが足踏み状態ですが、今後も積極的に活動していきたいと考えています。



自然観察愛好会

エコロジー工学専攻 修士2年 広田 敬一

この度は自然観察愛好会に援助をしてくださって誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。当愛好会は平成18年度に設立されました新しい愛好会で、市内の葦毛湿原や大学近くの天伯湿地、学内の植物観察や花壇整備を行って居ります。今年度の1学期には花壇の除草作業を行い向日葵の種を花壇に蒔き、夏には花が咲きました。ご援助は花壇の更なる充実主に使わせて頂きます。さて学内に目を向けてみますと、構内南側には大きな貯水池があり、周りにはアケビが茂っていたり、野鳥のさえずりが聞こえます。また記録的な暑さとなった今年の夏はセミの鳴き声が印象的でした。このように部員が学内の「身近な自然」に目を向けることから始めて、自然環境に対していろいろな意識を持てるようになればと考えております。今回の援助、誠にありがとうございました。最後になりましたが卒業生された先輩方の益々のご活躍をお祈りいたします。

ボランティア部

電気・電子工学課程 4年 中澤 寛一

この度は、課外活動活性化経費によりボランティア部を支援していただきありがとうございます。支援金は、ウミガメ放流活動の参加費用の一部として使用させていただきました。

ボランティア部は今年度から活動を開始した団体です。本学の学部4年を中心とし、愛知大学など他大学の学生を含め計35名ほどで構成されており、清掃活動、回収ボランティア、および学外のボランティア活動への参加を主な活動としています。

大きな活動に参加しているわけではありませんが、小さな活動を継続しています。特に清掃活動はほぼ毎月実施しています。当初は本学周辺の清掃を行ってました

弓道部

電気・電子工学課程 3年 瀧野 孝治

この度は、弓道部に援助して頂き、誠にありがとうございます。援助金は、巻藁や弓などの弓具の購入に当てさせていただきました。これまでは弓具がほとんどなかったため、自前の弓を持っていない人に弓を引かせてあげることができなかつたり、巻藁を使った練習ができなかつたりと、とても不自由していました。しかし、この度の援助によりこの問題を解消することができました。

弓道部は現在16名で活動をしています。練習は毎週日曜日に行っています。最近、初心者の人たちの射形が様になってきて、経験者と同じ「立ち」で楽しく活動をしています。ちかいうちに、弓道連盟に登録し、大会や審査に積極的に参加していきたいと思っています。

これからも、支援していただいたことを忘れず、日々精進していきたいと思っています。今後の弓道部の活躍にご期待ください。

空手道部

エコロジー工学課程 4年 室茂 健太郎

この度は私たち空手道部に援助していただき、誠にありがとうございます。援助金は講師への謝金として使わせていただきます。講師には空手道部が創立して以来、長きに渡って豊橋技科大、空手道部の指導をしていただいております。空手道部を支えていただいております。

私たちは毎週月、木、日曜日に稽古をしており、日曜日に講師に来ていただいて、指導を受けています。稽古では初心者が多いということ、大学を卒業してからも空手を続けてほしいということから、基礎稽古を重点的に行っています。稽古は決して楽なものではありませんが、心身共に強くなるために部員一同、精進しています。現在の部員数は7名と決して多くはありませんが、今後も皆様から支援していただいているということをお忘れずに、精一杯活動していきたいと思っています。

少林寺拳法部

知識情報工学専攻 修士1年 杉山 拓

この度は我々少林寺拳法部へ資金援助していただき、誠にありがとうございました。部員一同、心よりお礼申し上げます。

少林寺拳法部は東海学生連盟に所属し、連盟主催の大会や、国立大学体育大会、本山合宿などに積極的に参加し、他大学との交流や自己の技術の向上などに励んでいます。一方で、年々部員は減少しており、部員一人当たりの負担が増える、練習への参加人数が少ないなど問題を抱えています。援助金を頂いたことで、部員の負担も軽くなりとても助かりました。

援助金は、香川県の少林寺拳法部連盟本部で8月上旬に行われた本山合宿の費用に当てさせていただきました。

本山合宿には全国から20の大学が参加し、約1週間の技術訓練、学科指導が行われました。我が部からも2名が参加し、普段の練習のみでは得られない技術を学び、また他大学との交流を通じて豊橋技術科学大学の名を広める、とても有意義な合宿となりました。

人数の少ない部ですが部員一人一人が精進し、部の活性化に取り組んでいきたいと思っています。加えて、普段の練習方法の改良や合宿での経験を活かし、大会などでも成果を上げられるように努力していきます。今後の少林寺拳法部の活躍にご期待ください。

武道部

建設工学課程 3年 宇野 絢

この度は武道部に援助していただきまして誠に有難うございます。武道部員一同、心よりお礼申し上げます。

援助金は講師として来ていただいておられる先生の講師謝金として使わせていただきます。

武道部は現在34名で活動しており、毎週水曜と土曜に空手や古武術の稽古に励んでおります。また、7月15日(日)には豊橋市民文化会館にて「第3回豊橋技術科学大学武道部演武会」を開催いたしました。当日は200名余りの方にご来場頂きました。演武会では「成長」をテーマに武道の魅力、武道の楽しさを知って頂ける内容といたしました。特別企画「武道の成長における心と技」では、初級者から有段者まで帯ごとに技を行い、帯の違いやその成長過程を見ていただきました。そのほかにも、形や六方を囲まれた状態で行う六方組手、棒やサイ、トンファーを用いた古武術、瓦やブロックの試割など、子供からお年寄りまで多くの方々に楽しんで頂きました。

今後も、地域や大学に貢献できるよう精進して参ります。ご支援のほどよろしくお願い致します。



援助対象団体一覧

陸上競技部、水泳部、トライアスロン部、サッカー部、ラグビー部、軟式野球部、硬式テニス部、ソフトテニス部、バスケットボール部、卓球部、バドミントン部、空手道部、少林寺拳法部、武道部、弓道部、留学生スポーツクラブ、総合文化部、吹奏楽団、軽音楽部、自動車研究部、ボランティア部、ロボコン同好会、自然観察愛好会、アニメーション&コミック研究会、おちゃのかい、国際交流クラブ、豊橋日曜学校

